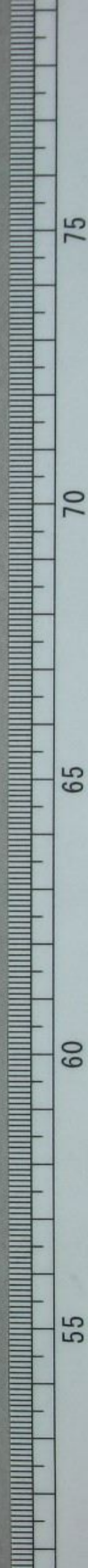


碁立縮篩前編

二

ヲ多
641
2

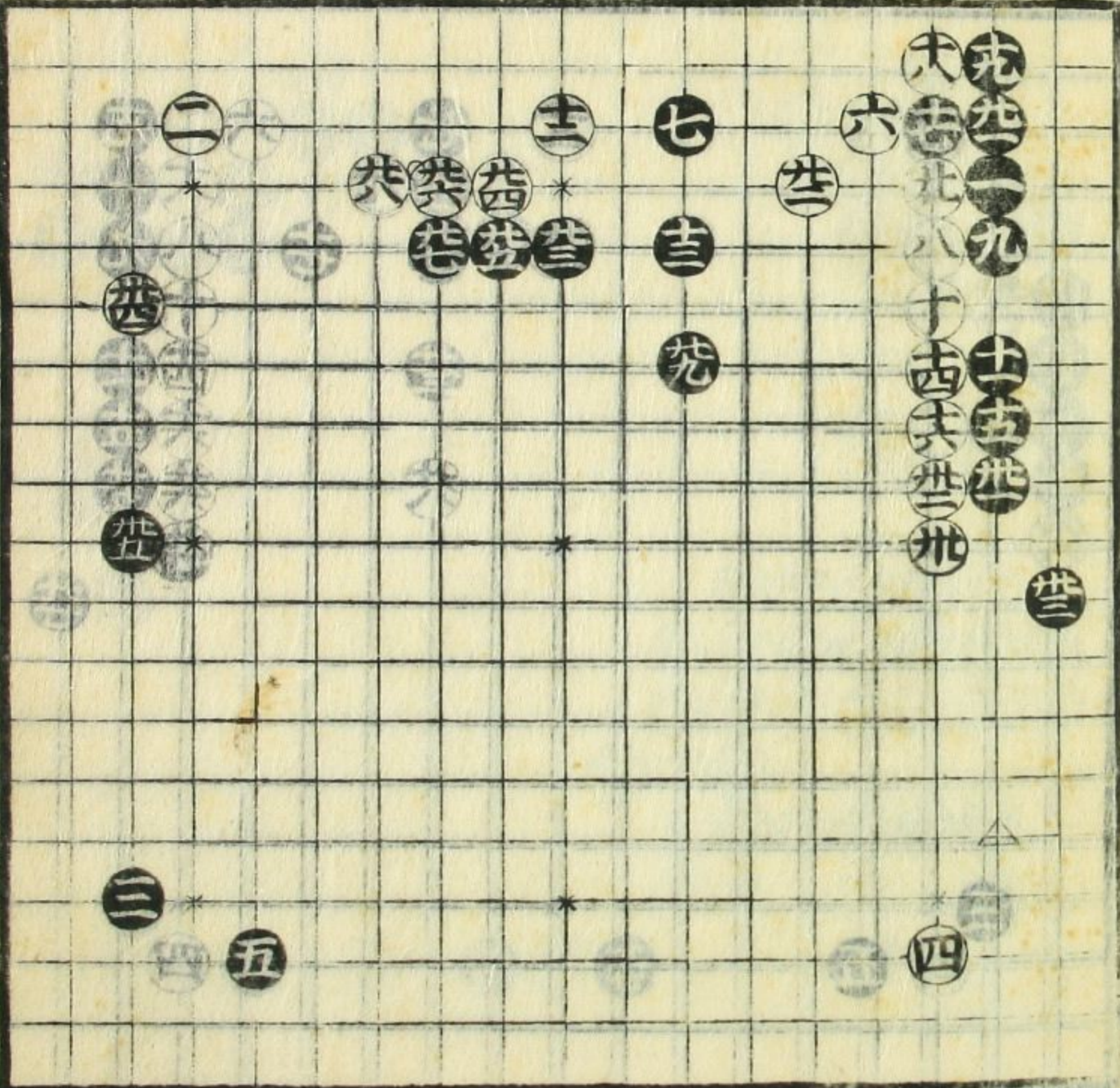




碁立縮師前卷三

才二二一
二十めと

白四の石あのかく
有八黒△△△△△
何々九七のまりこ
むくぬ白三すみ
同ふ有る黒子
また外の石を打
る一石傳
廿四の○字掛り
打て白落はこ
二角こすんで
又ハこすとの白あ
て落はれ黒白た
すこりさき也



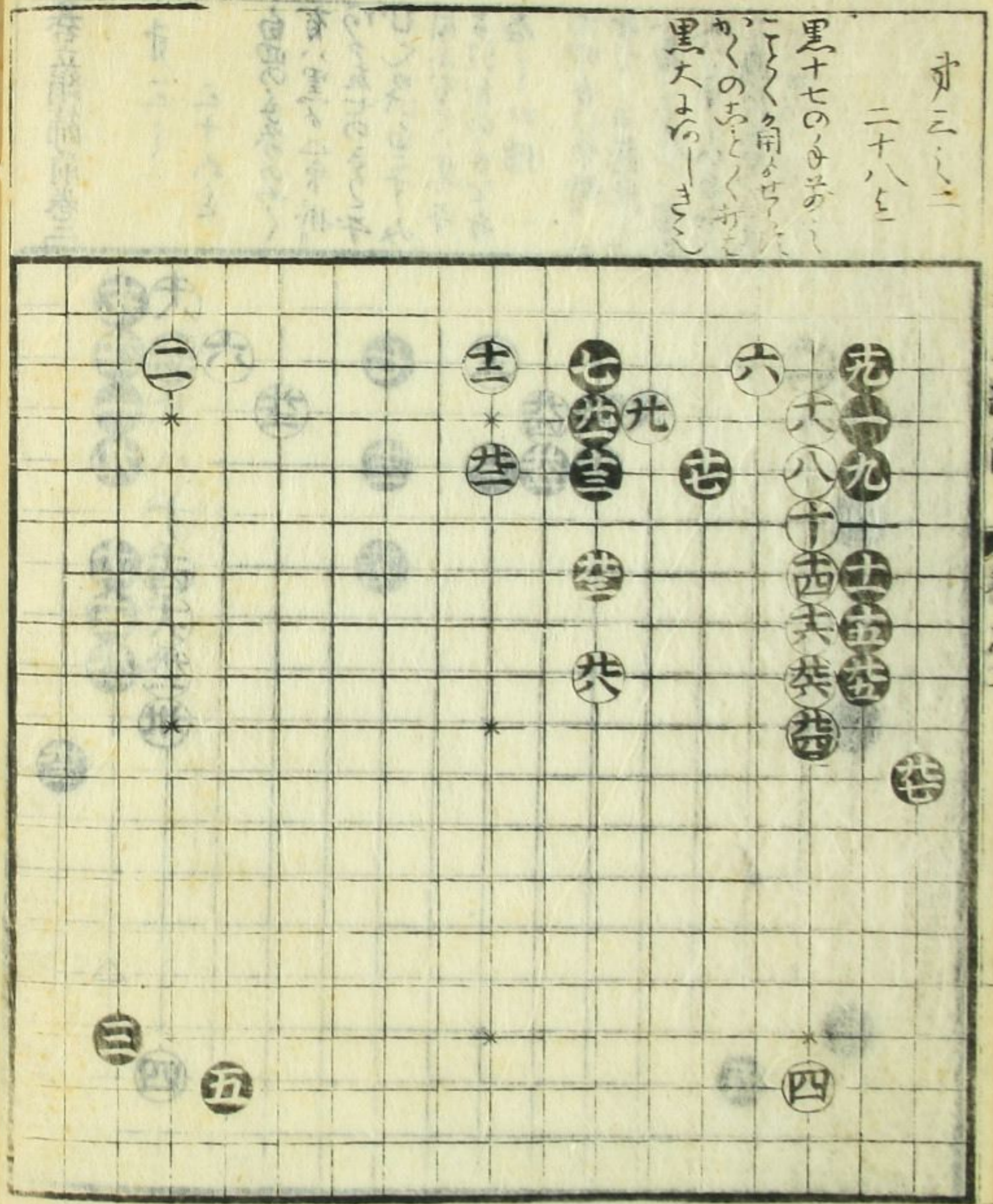
碁立縮師

前卷三

才三三三

二十八

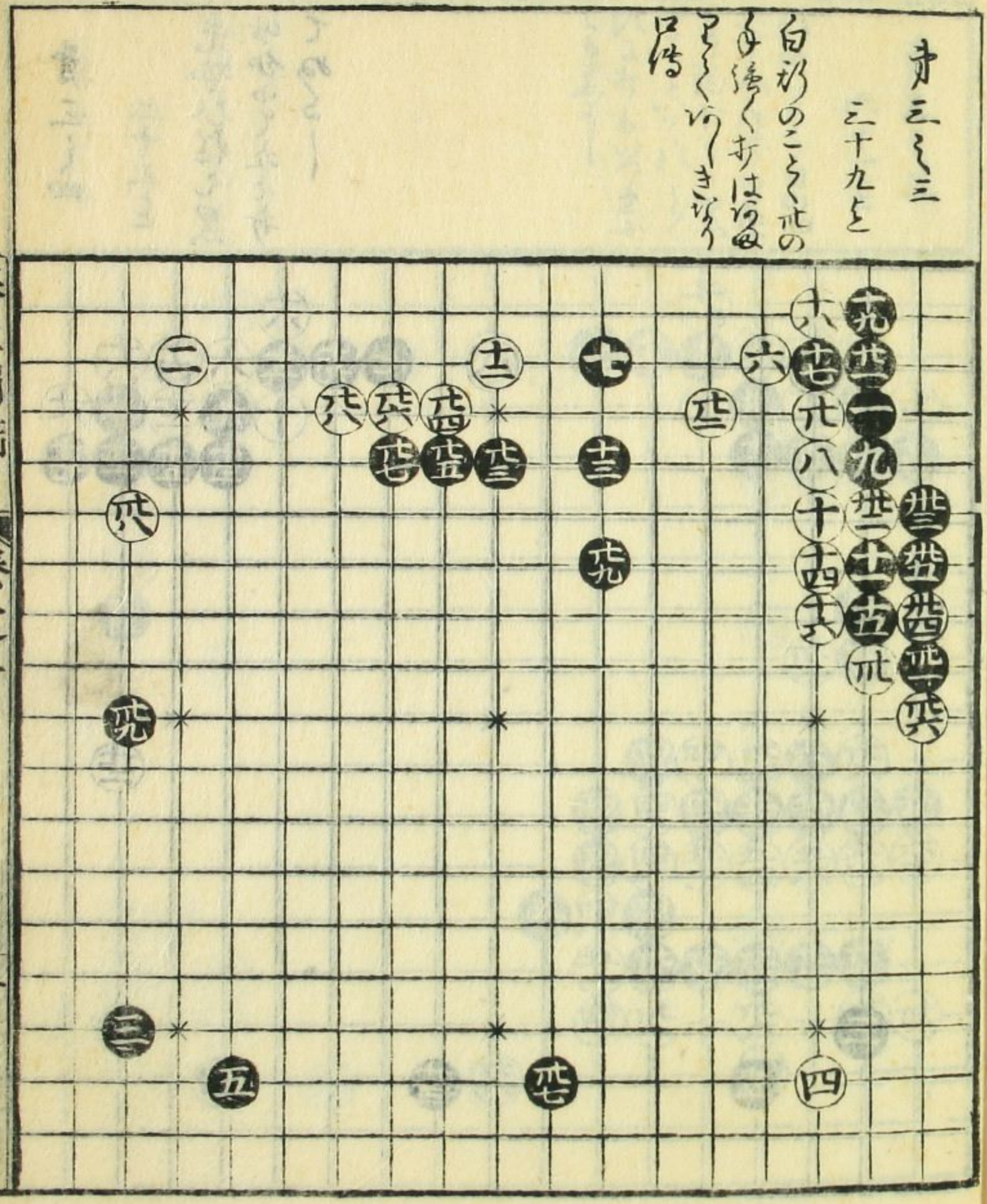
黒十七のひま
こくく角をせ
かくのあつく
黒大よのーま



才三三三

二十九

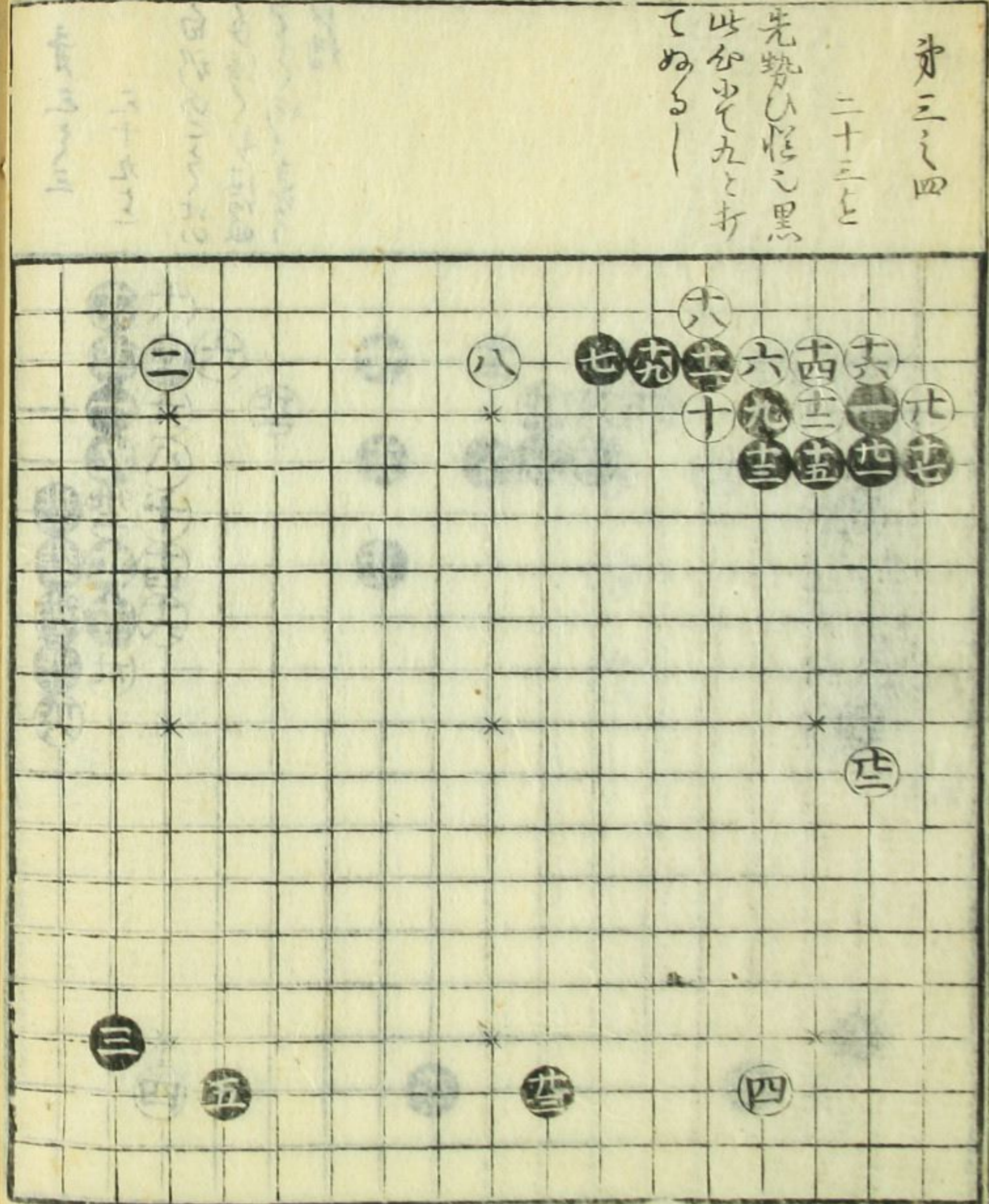
白初のこく
ひまはは
くくはま
は



才三之四

二十三と

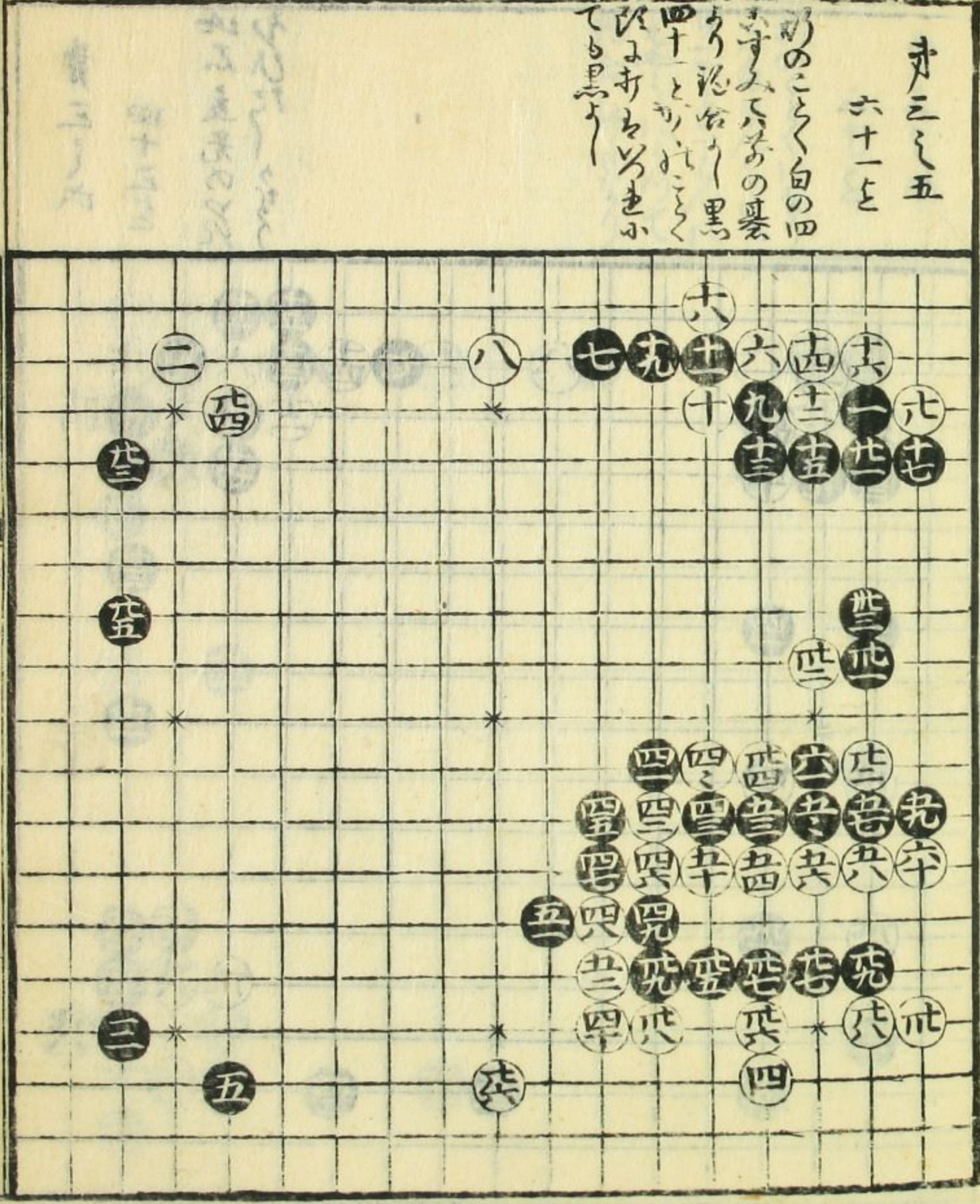
先勢は怪し黒
此分して九と打
てぬる



才三之五

六十一と

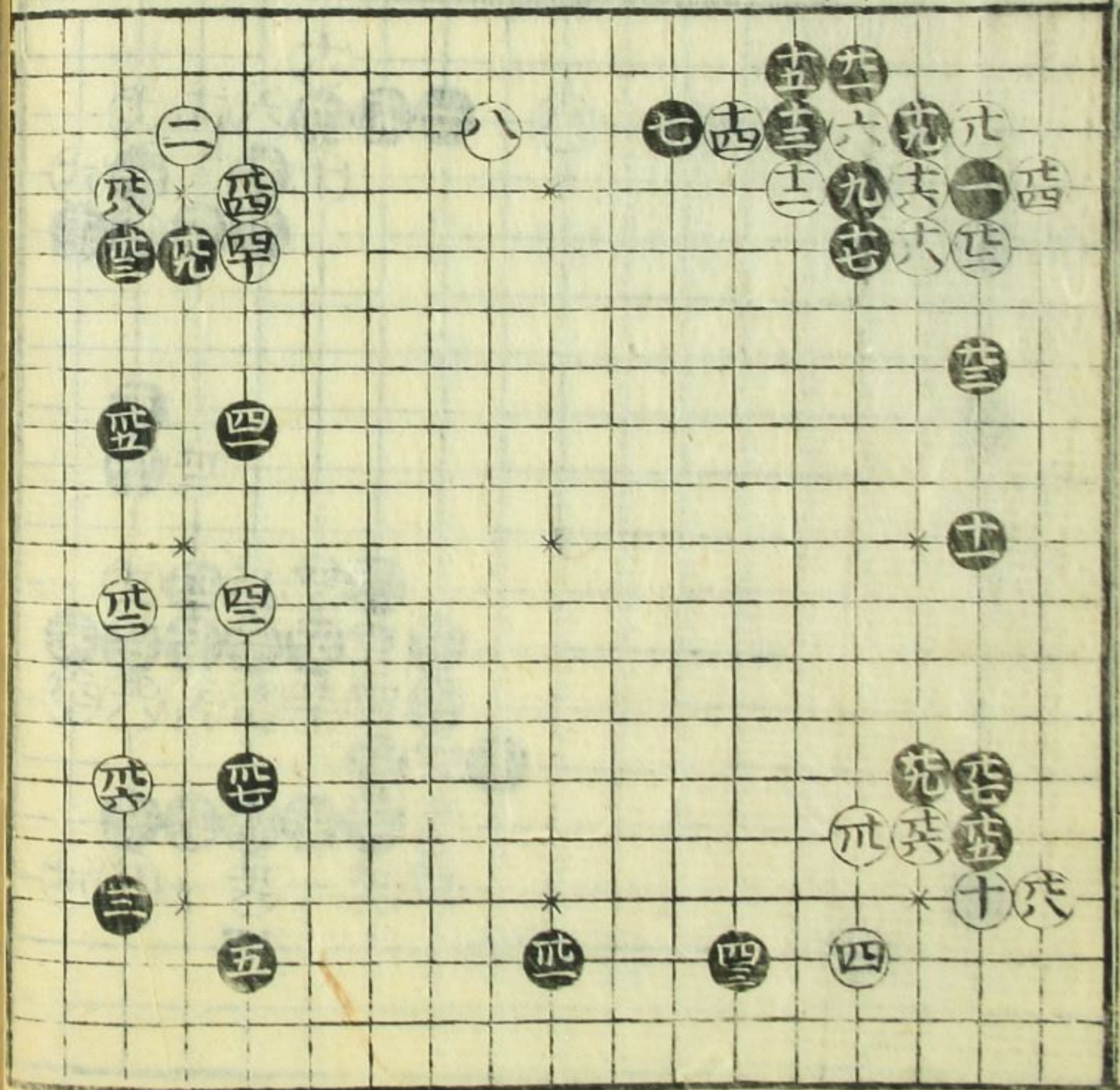
初のことく白の四
はすみんあかの裏
より沁合う黒
四十一と打ぬこ
改ふ打とろまふ
ても黒より



舟三六

四十二と

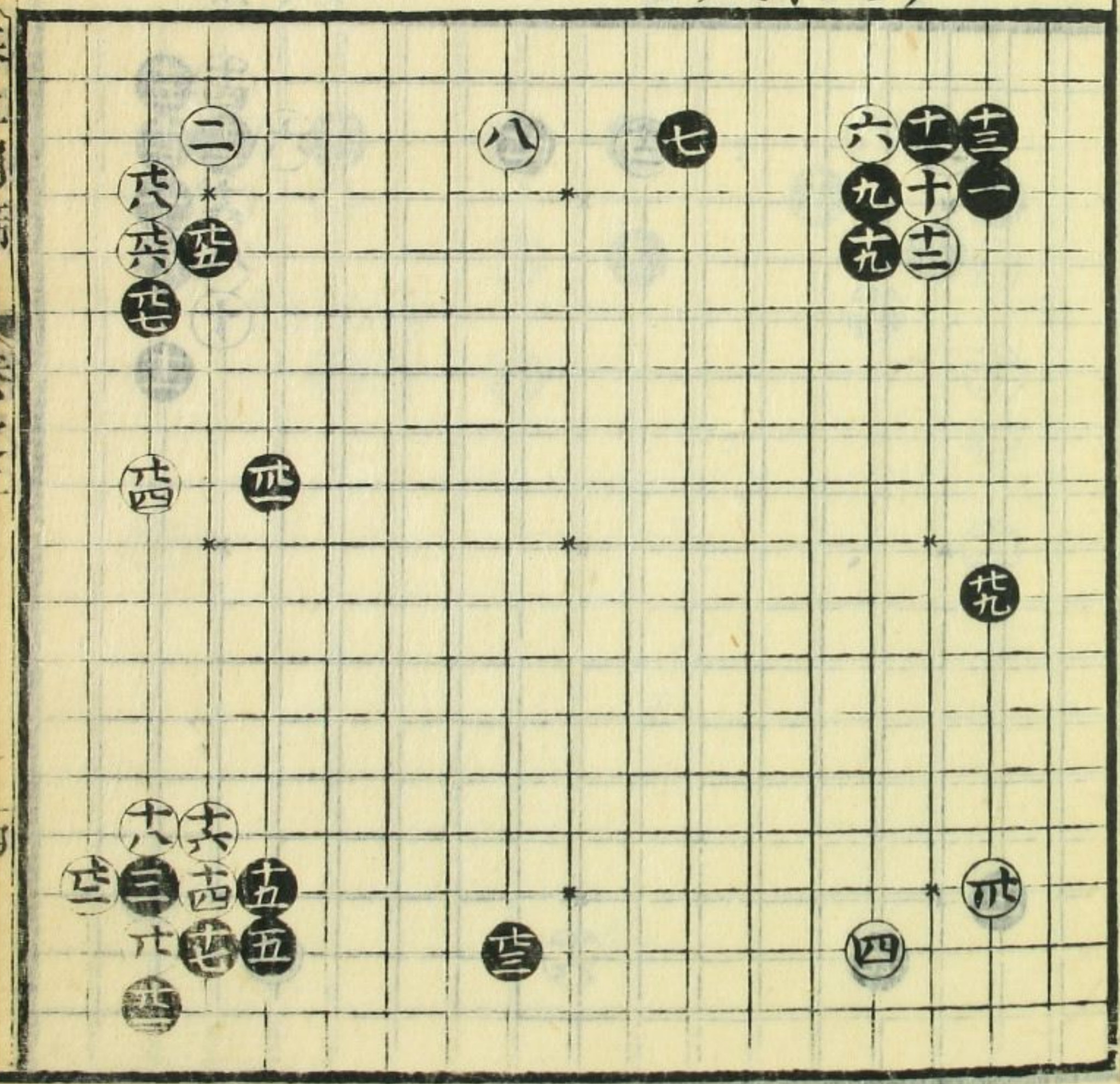
此石立先のり
ふひた〜くちう



舟三七

二十一と

初の〜くはあり
てハ白せんし黒
或一の〜らんれ
毛やうにどうて
約合能〜りり

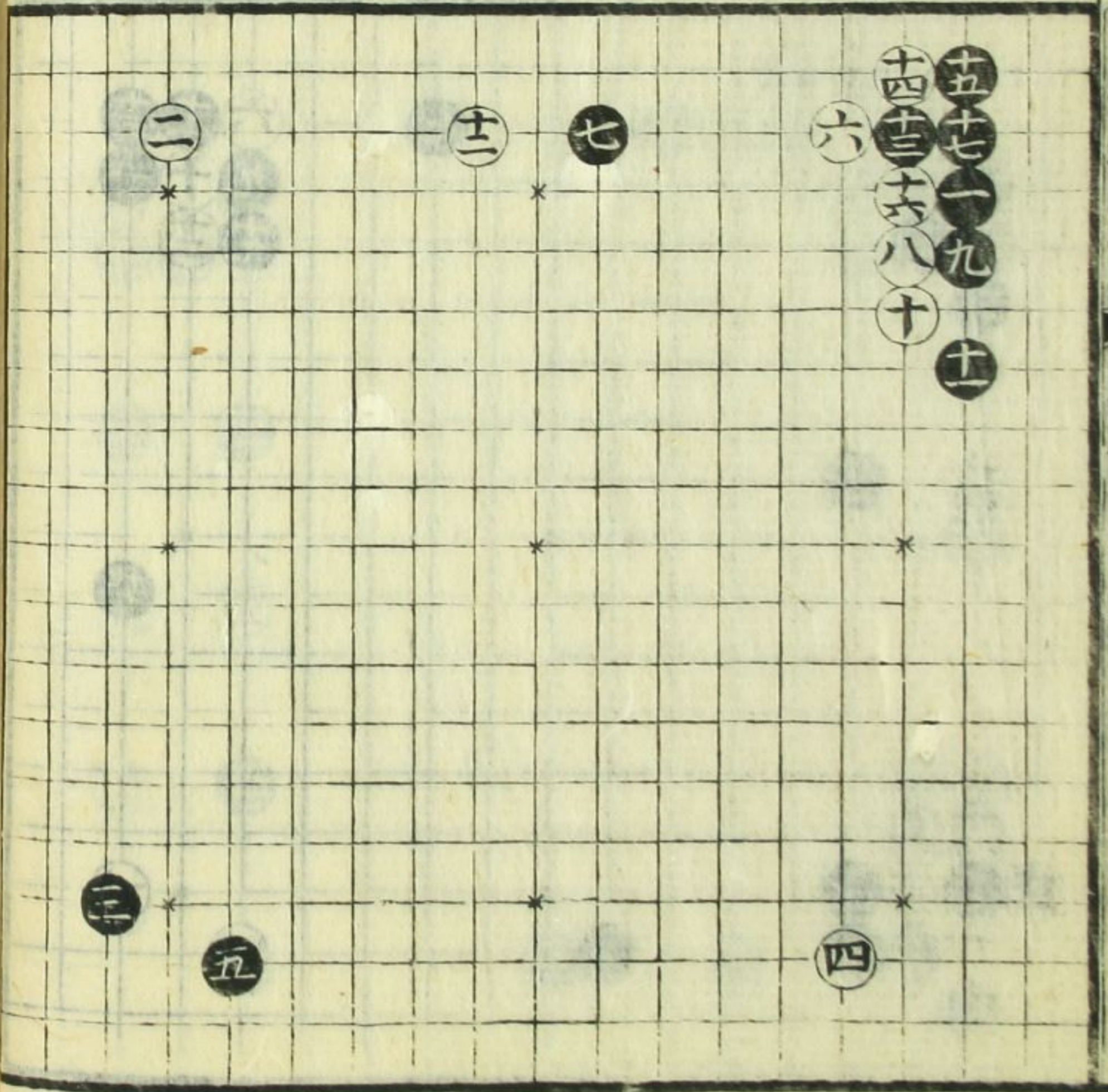


廿三ノ八

十七まで

二回換は此石取
白より黒より
をさむハ換がり

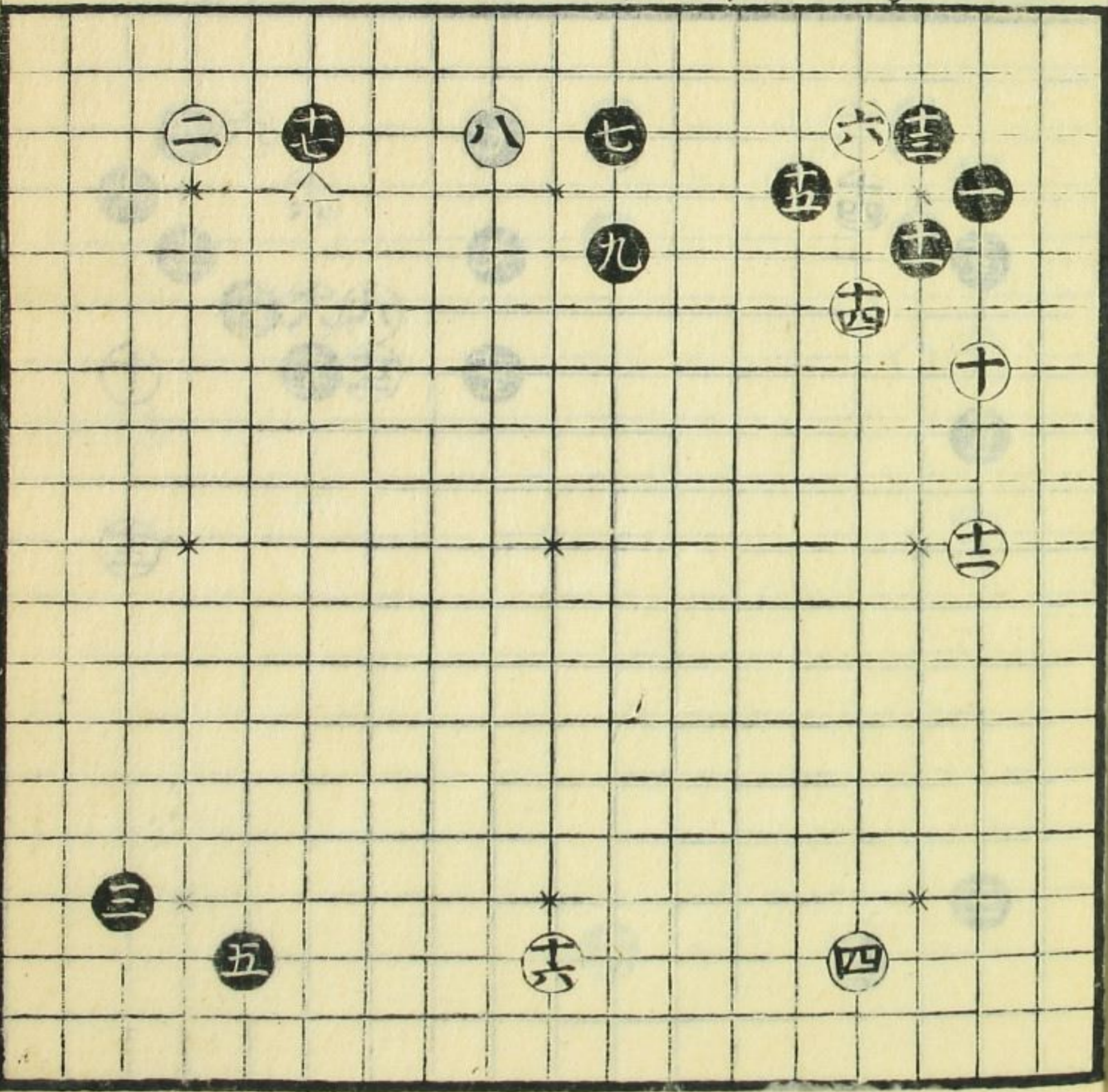
五七一九
十四十六八十
十一



廿三ノ九

十七まで

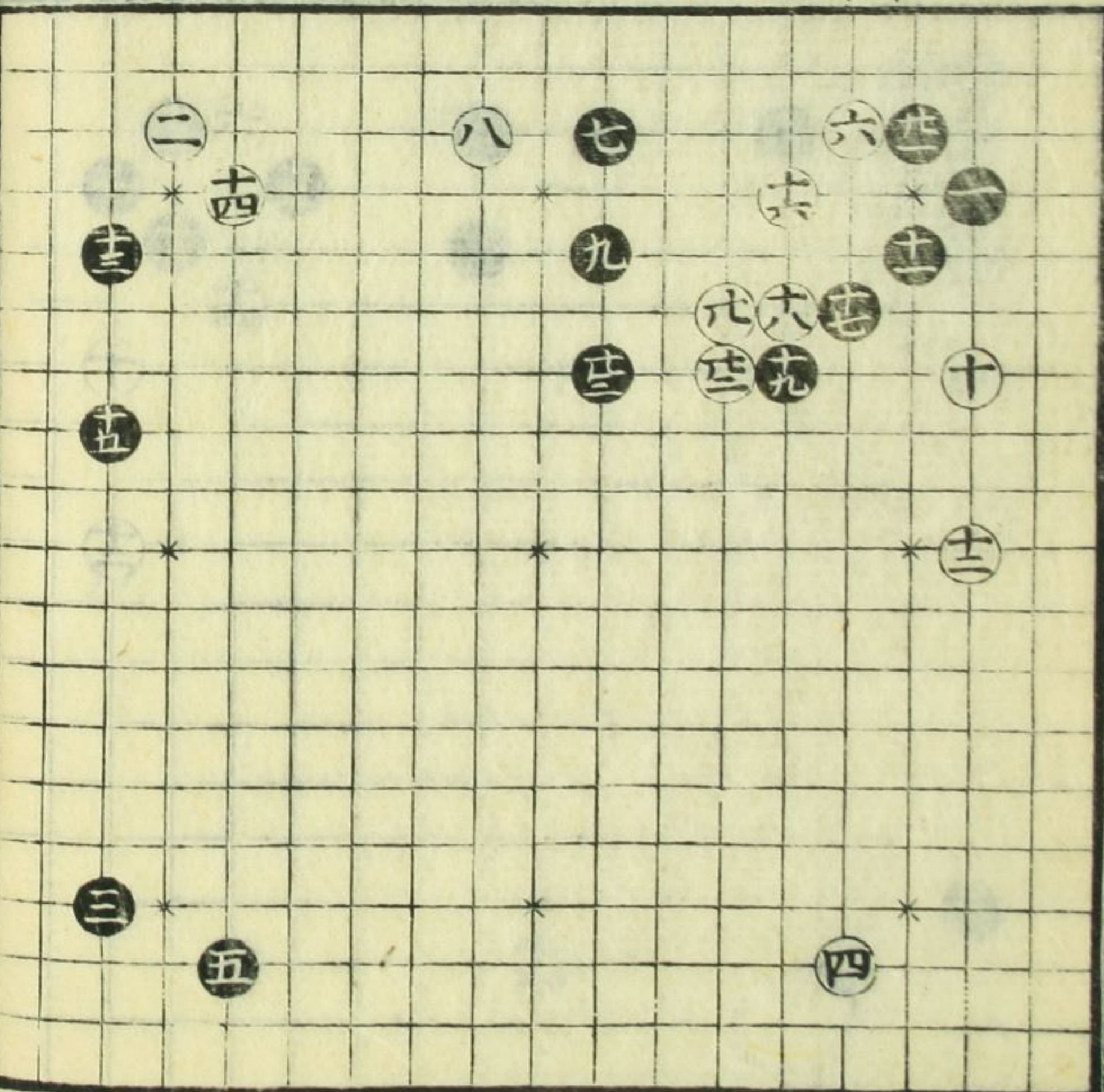
黒十七の折は白
よ之家世ハ中
折は内々黒は
角のまりて
吹河さきなり先
童せてハ白乃石
互面白は



才三と拾

二十と

黒十二の石はかく
角張るはかく
のこころおても
同となり

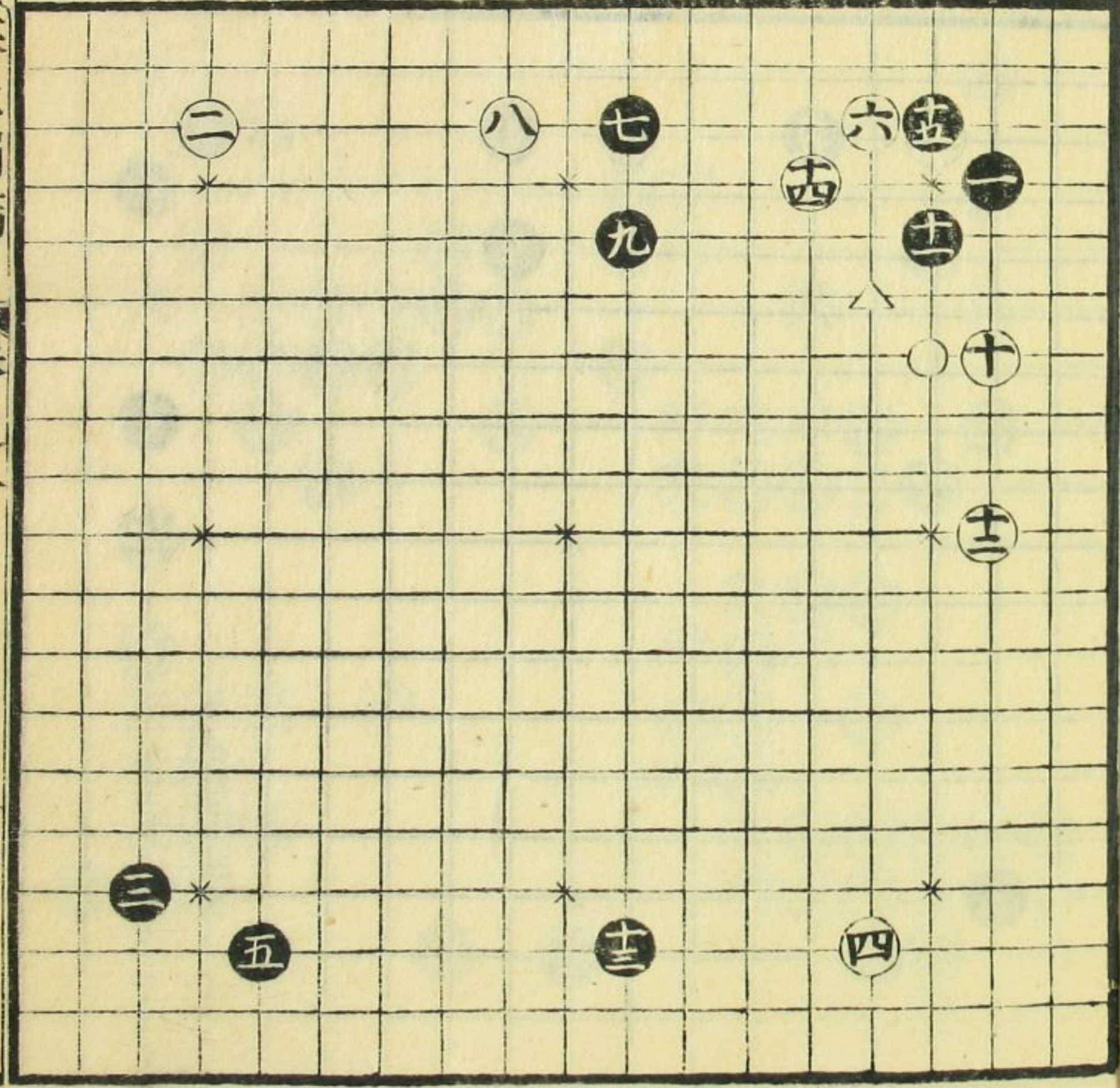


碁山録 卷之三

才三と拾一

十五まで

黒九の石はかく
附黒十の石は上
△印は守り
かくのこころは
たかりは又黒
とありをかく
白十一の石は
守りては

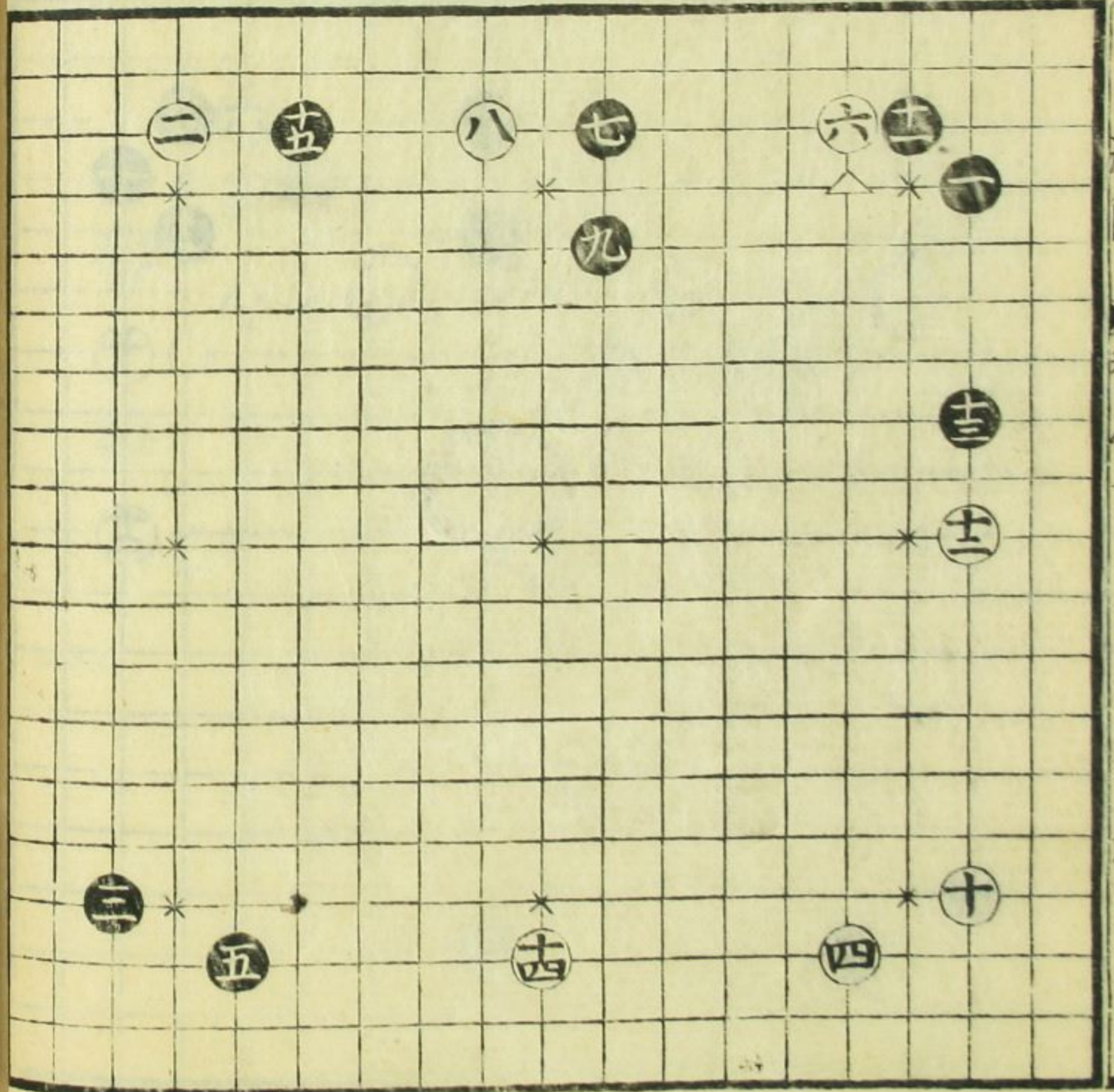


碁山録 卷之三

才三十三

十めまで

黒十五の身白乃
六成上よりなる
△市二海の中
黒能敵一切は
河久一



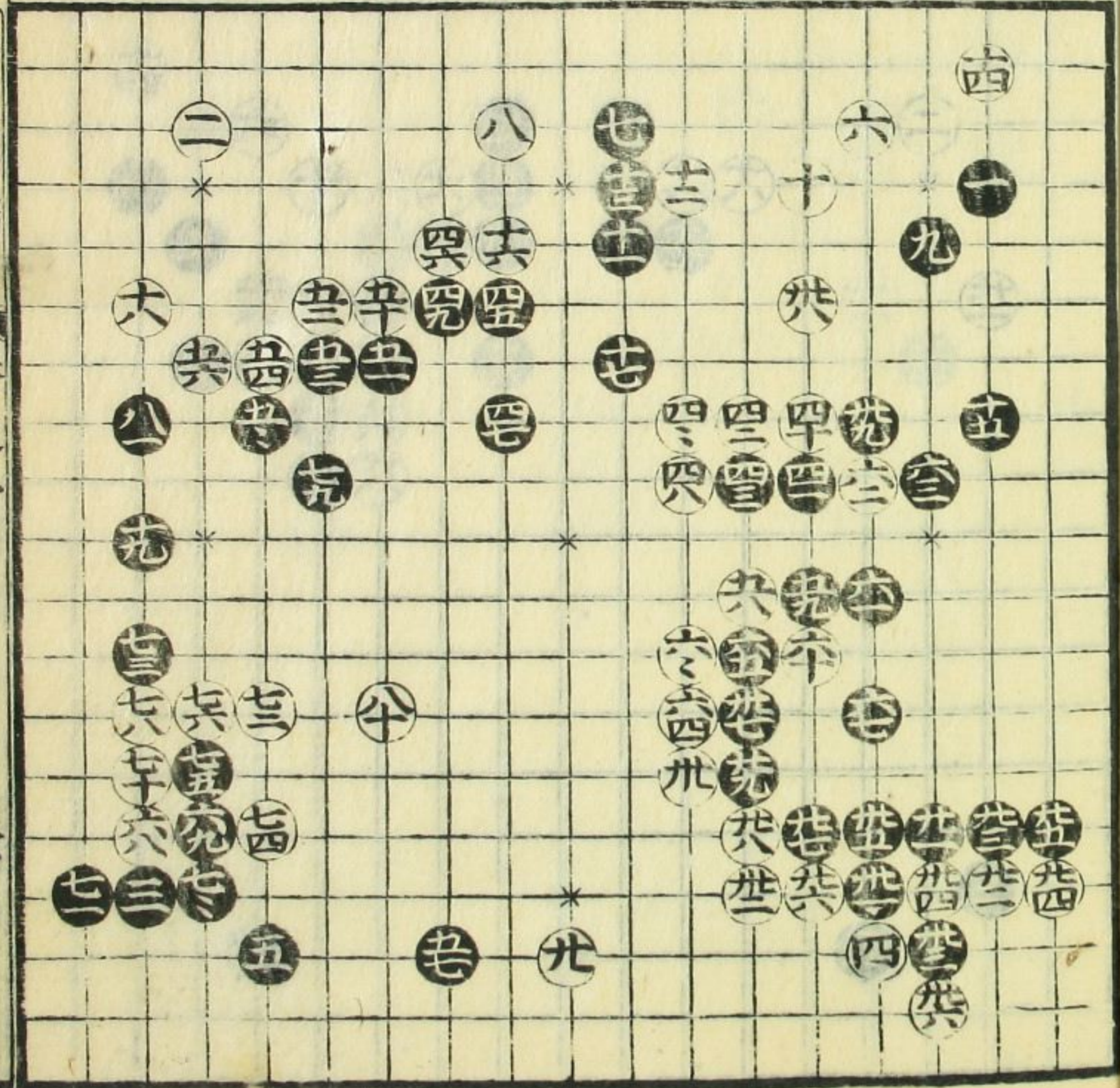
精進集

卷之三

才三十三

七十九と

此石を先の勢ひ
怪之と云ふの極
小なりては
とも黒九の附白
十とありと云ふ
角人桂るに
石をよめては
とす



其五肩節

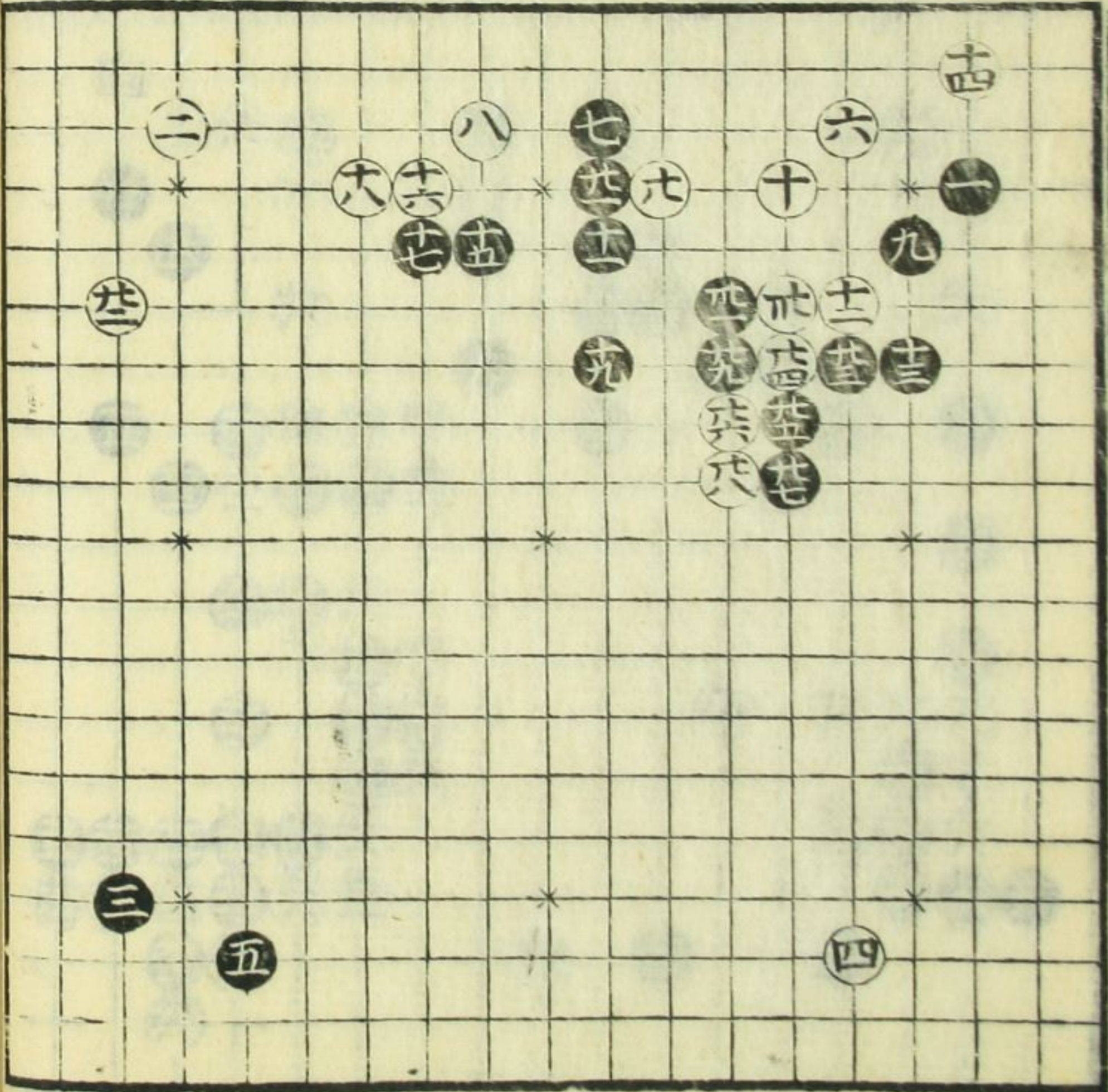
卷之三

七

才三拾四

二十一まで

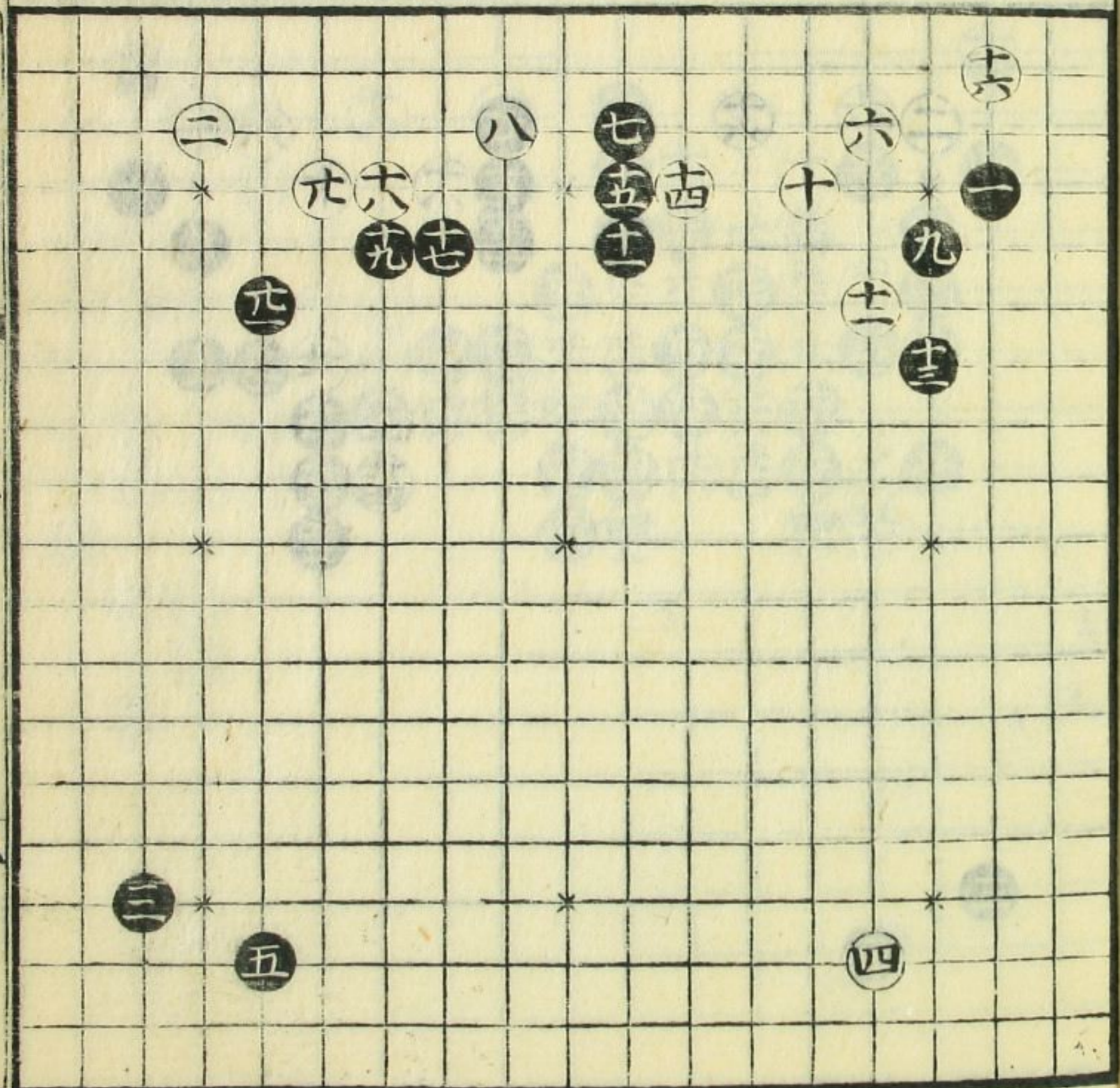
白八のよびり
史黒大にう



才三拾五

二十一まで

かくれおとく白十
四のをれおれ内ハ
黒十七と飛んで此
筋よ打てう



才三と拾六

二十五と

羽のことう黒直よ
赤て白のまふく
世形よ赤附ら白
回のり位より

才三と拾七

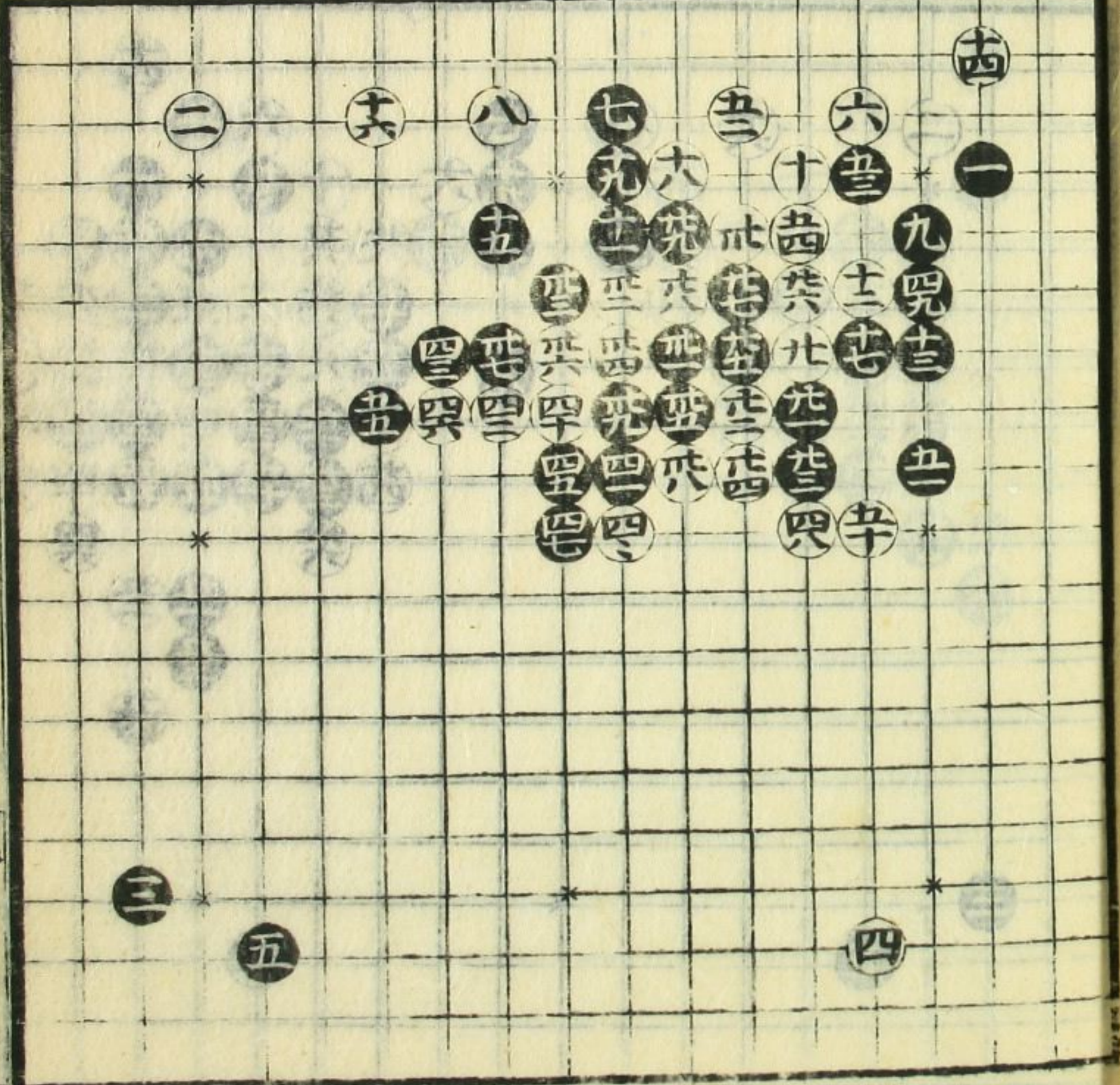
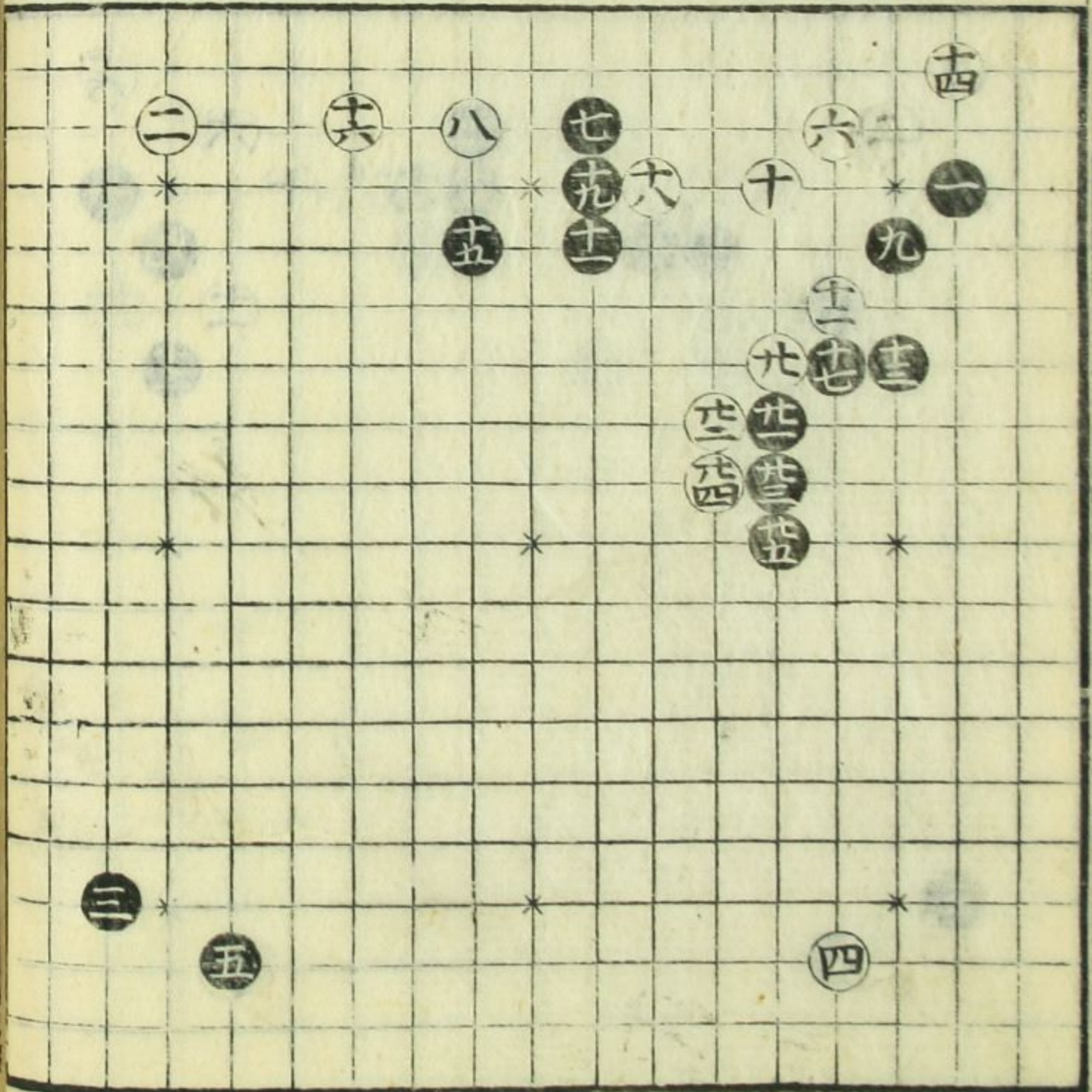
五十五と

黒二十五のち茶
れことのひすし
て切くもより

棋譜
終局

後三

八



才三十八

五十七

斯のこくに八を
翻すおきて也

才三十九
五十八
五十九
六十

才三十九

二十九

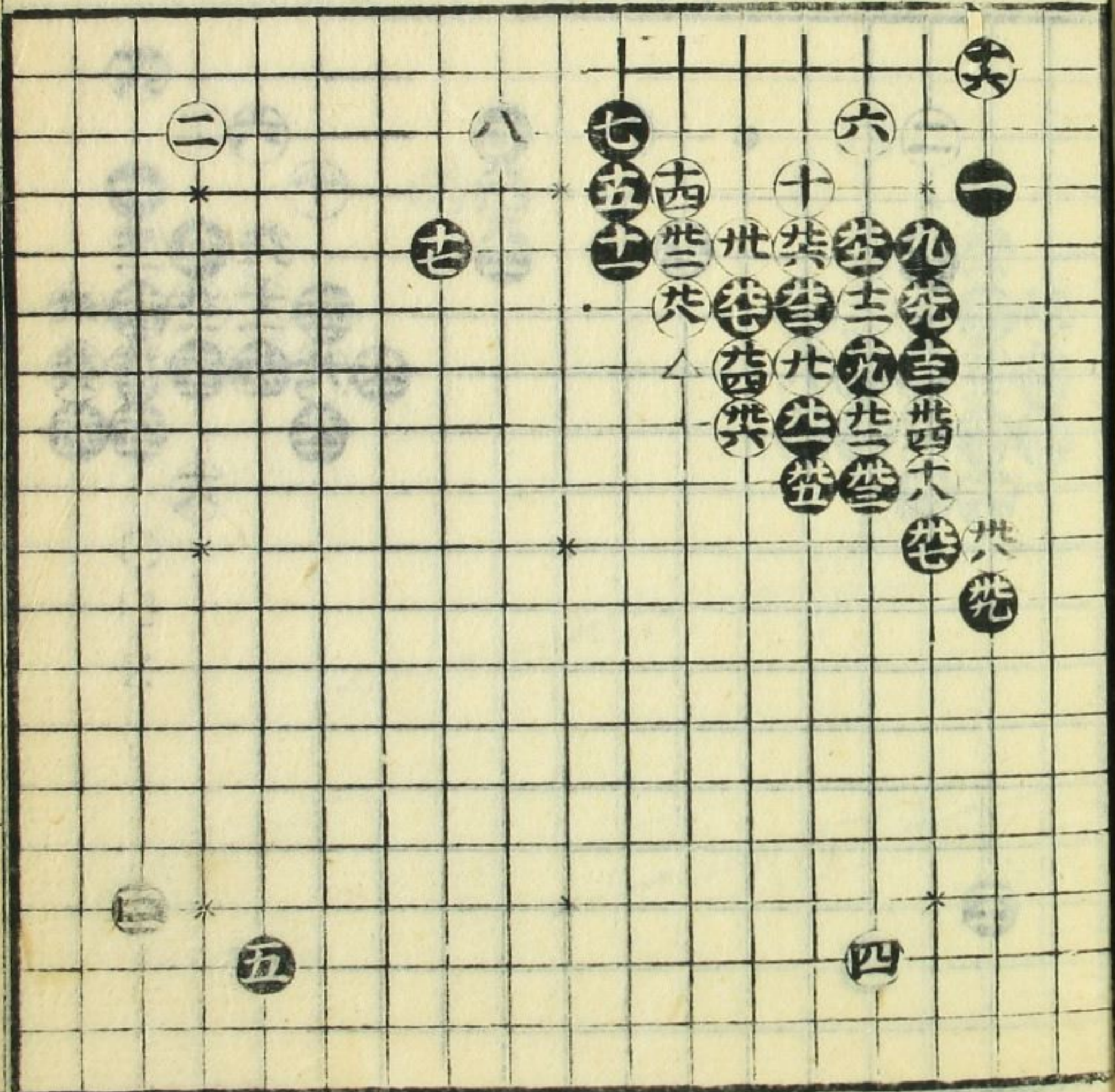
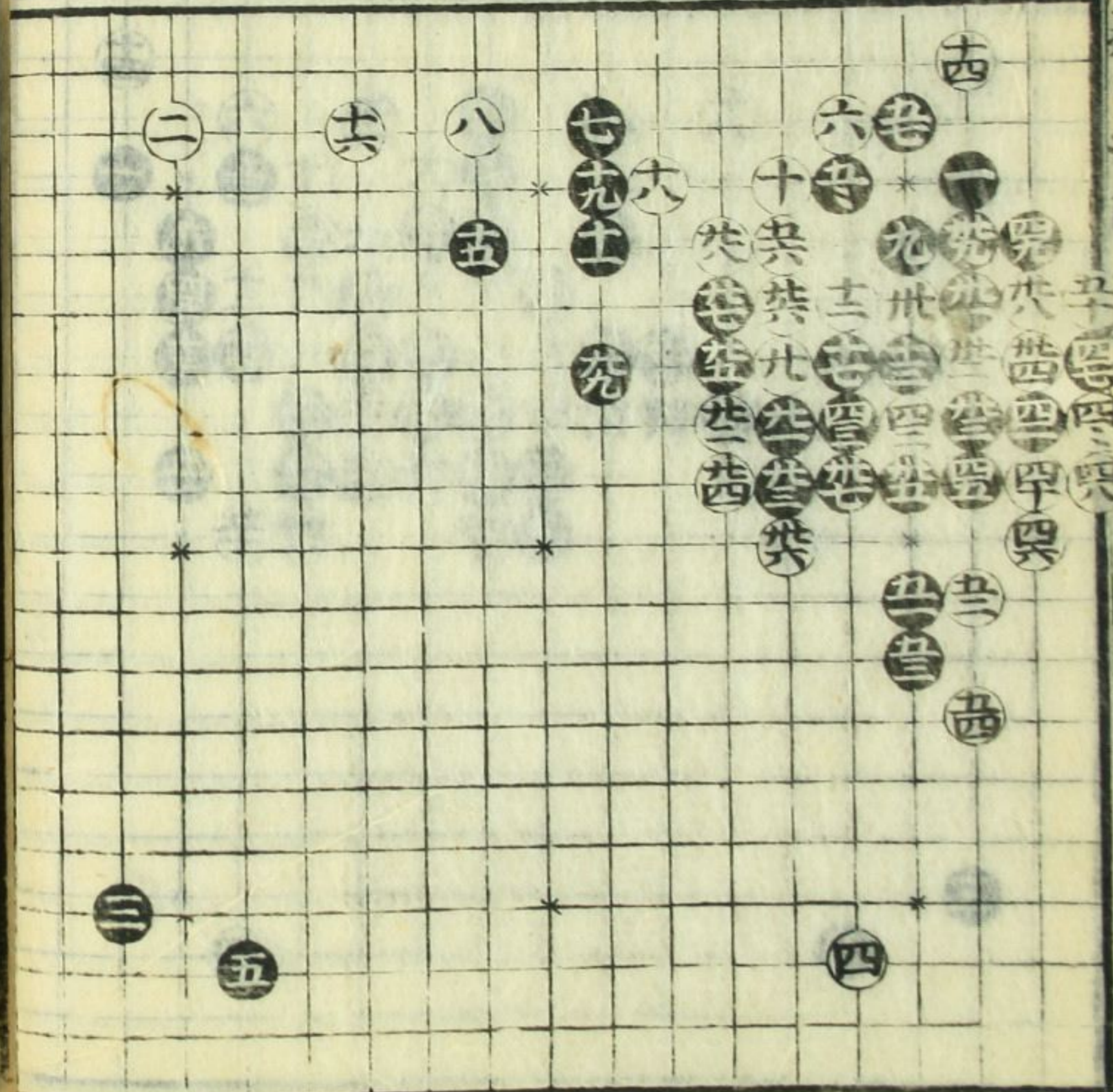
黒三十一の白十二
此取粘黒方征
河内白北四△
中を切アを粘
て毛

黒三十一粘

其の立筋

辛四四四

九



其の立筋

九

才三と二拾

二十二まで

白十八の角をさぐり
こたく△に△をさぐり
おても角をさぐり
めくのこたく角を
白十八の角二番おて
足合へ大方を
世通りおへ
○は三三の位
りり黒●に打た
かゝれこたくおる
一番位の合へり

才三と廿一

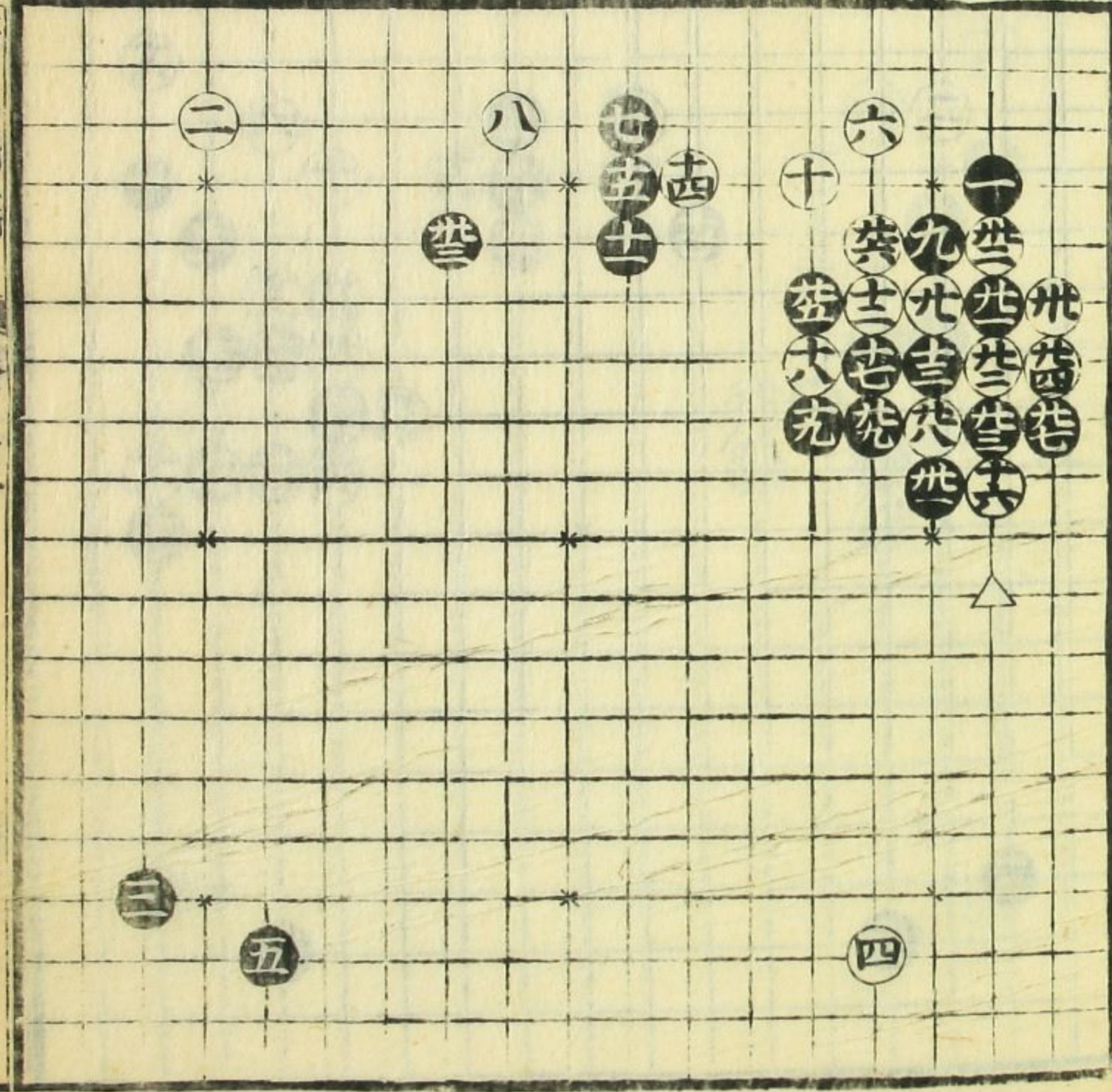
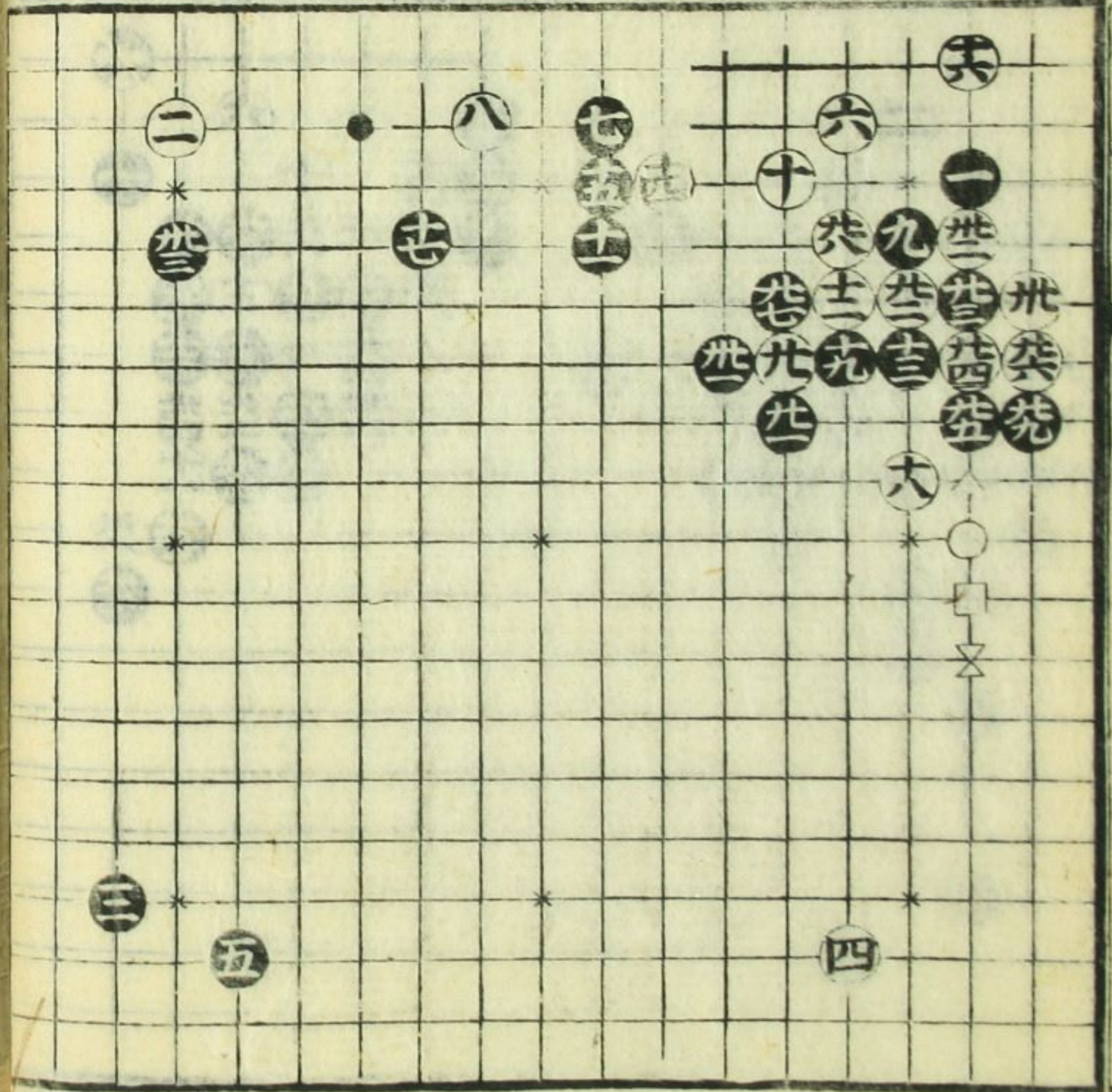
三十三と

白十六の目上掛
△に黒おて
白十八おて取
らぬしてめくの
めくおるは

其の立筋

卷之三

三



才三之三拾二

二十七まで

白先を置きては初
はこしくおのふ
面白く黒此石
立歩附の歩の
△歩に歩人一番
ふりて儘かくの
ましくおなり
此表上黒は居一
同成打原の
何さく黒は石
左を打附八七の
石は一回は
しを敵を悟
おる

才三之三拾二

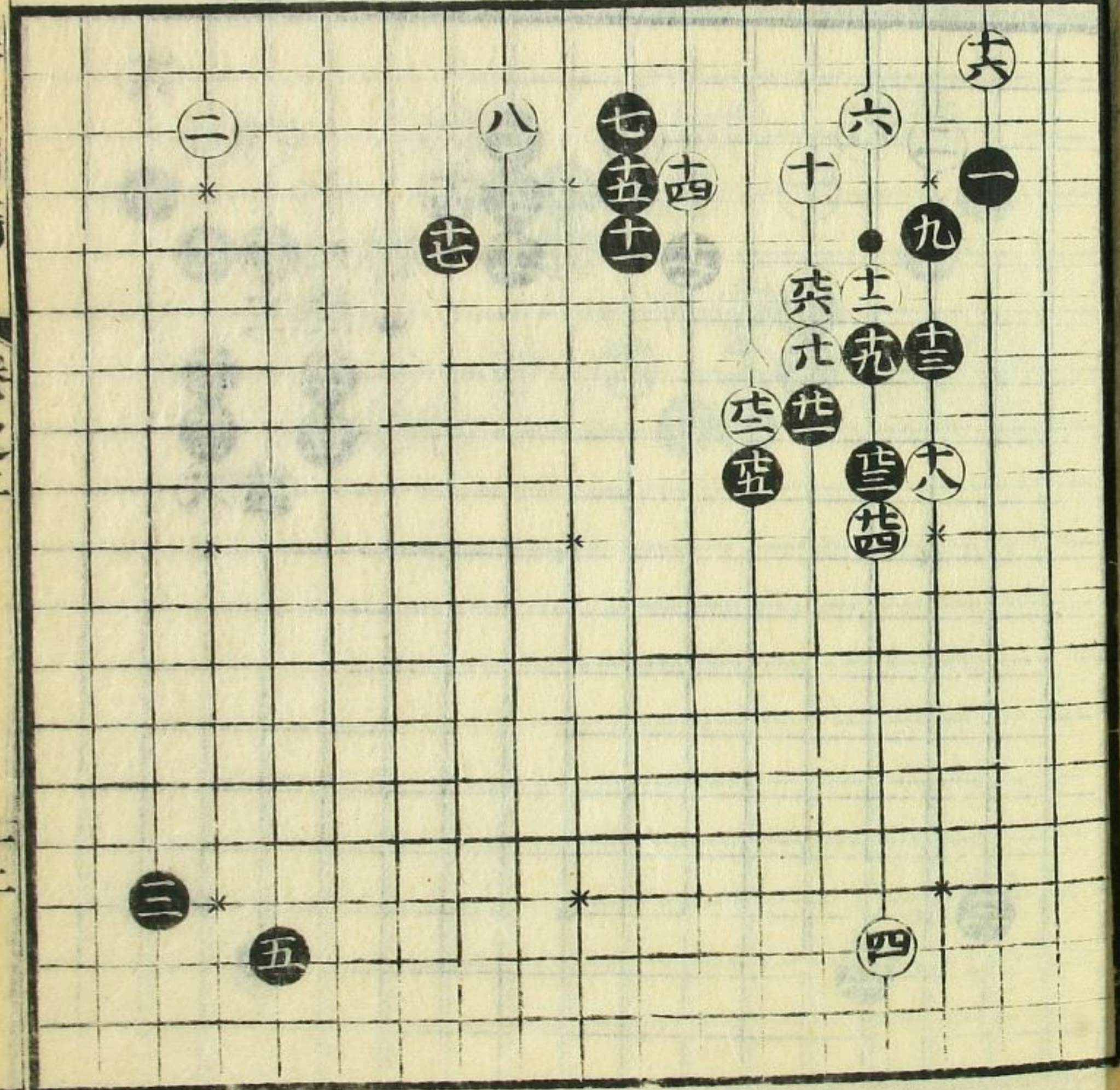
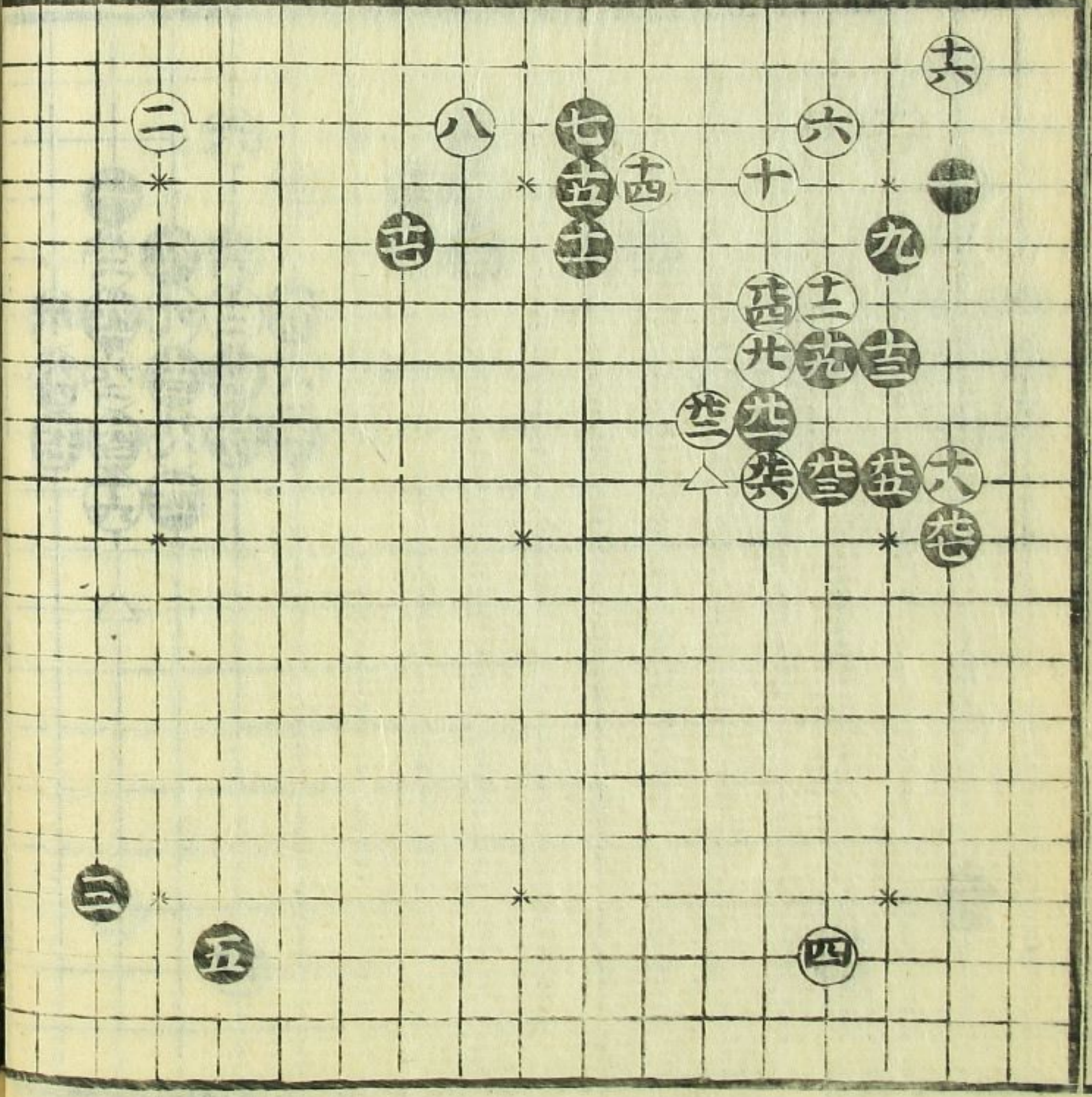
二十六まで

黒初よりては
白二十六の△歩
上歩内を黒の九と
●歩(出ろ)

棋譜

卷之三

一



棋譜

卷之三

一

才三しく廿四

二十四まで

黒十九の附●下を
押入して伸せば
黒出て切るゆえ
角と白取
れ又角よりさし
方附のこころ
打入

二十四まで
二十五まで
二十六まで
二十七まで

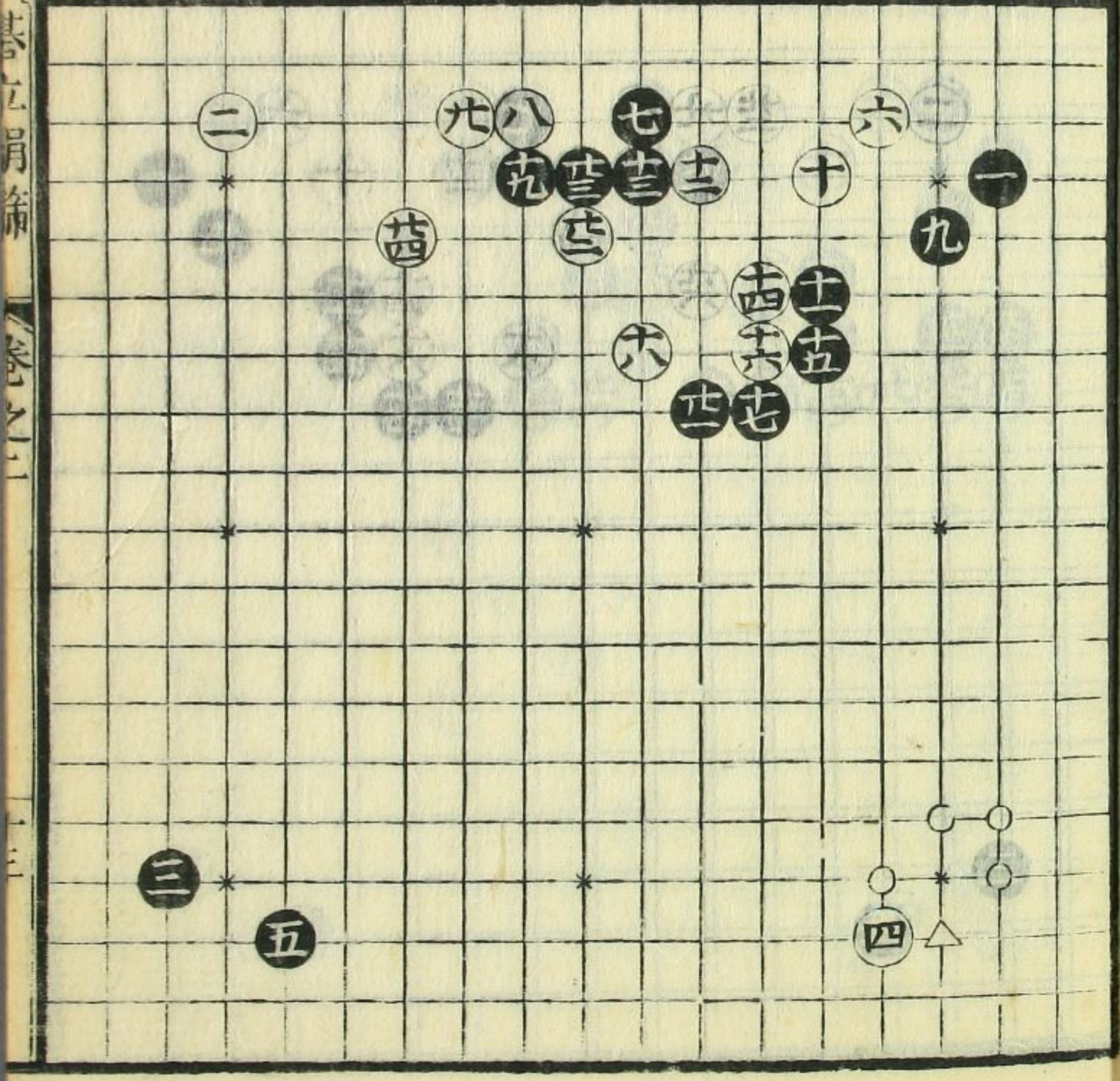
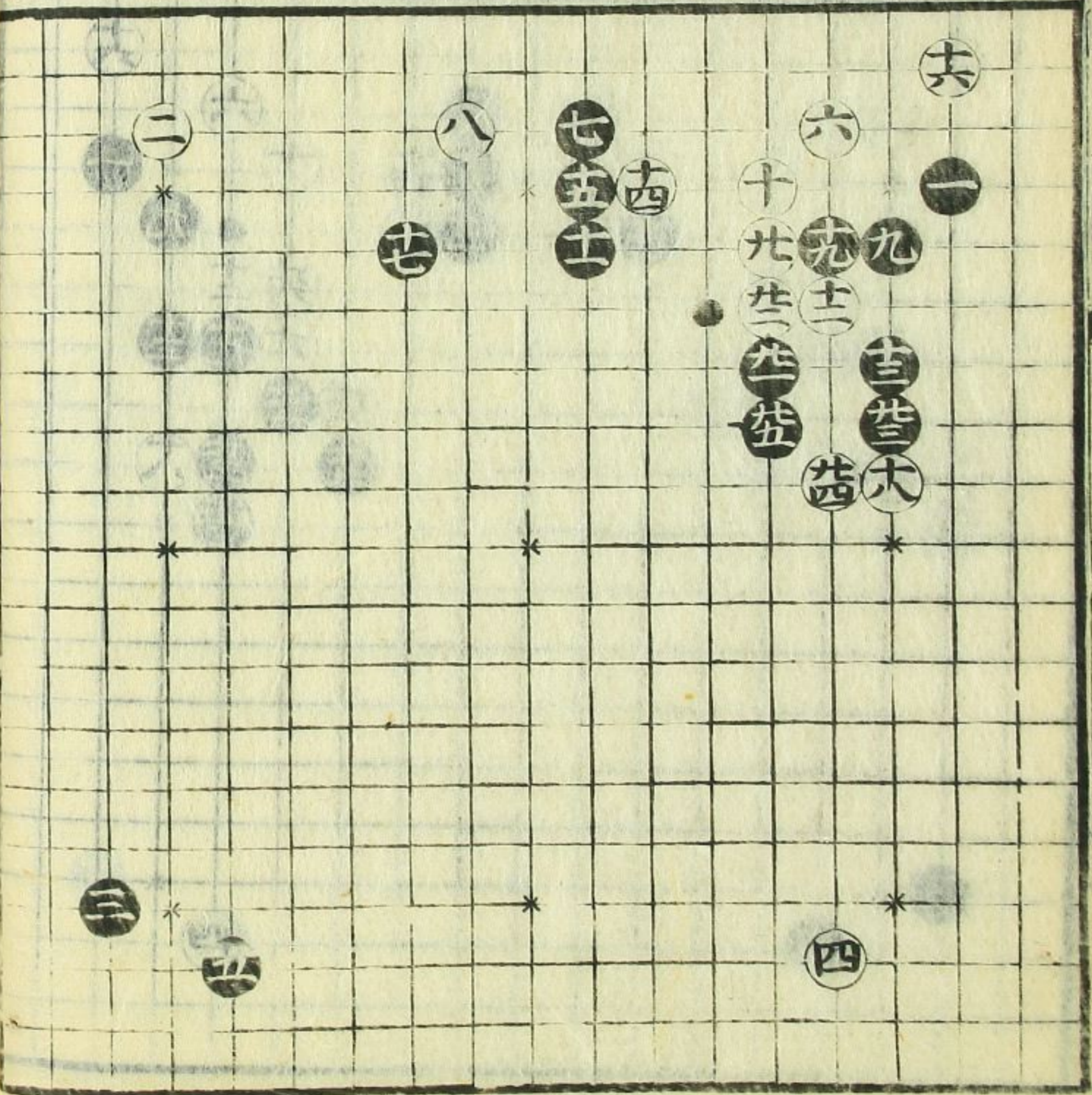
才三しく廿五

二十四まで

黒十七のこころむり
先走るるを茶乃乃
ゆくありては河ま
白四の石○四の作四
少て○黒中に行る
内ハ外ハ掛りをや
入て十一のこころ
十一の黒も白四の
かこのこころ△中
に白有附打入
○のけ四の石有附ハ
好んて打入るるに
△中ハ黒掛りをも
り付を控く十一
のこころかこのこころ
打入

碁立 碁筋

碁立



碁立 碁筋

碁立

方二く亦六

二十六と

黒二十一と先に押
ても黒のりも也

Handwritten notes in the top margin of the right page, including the number 26.

方二く亦七

二十七まで

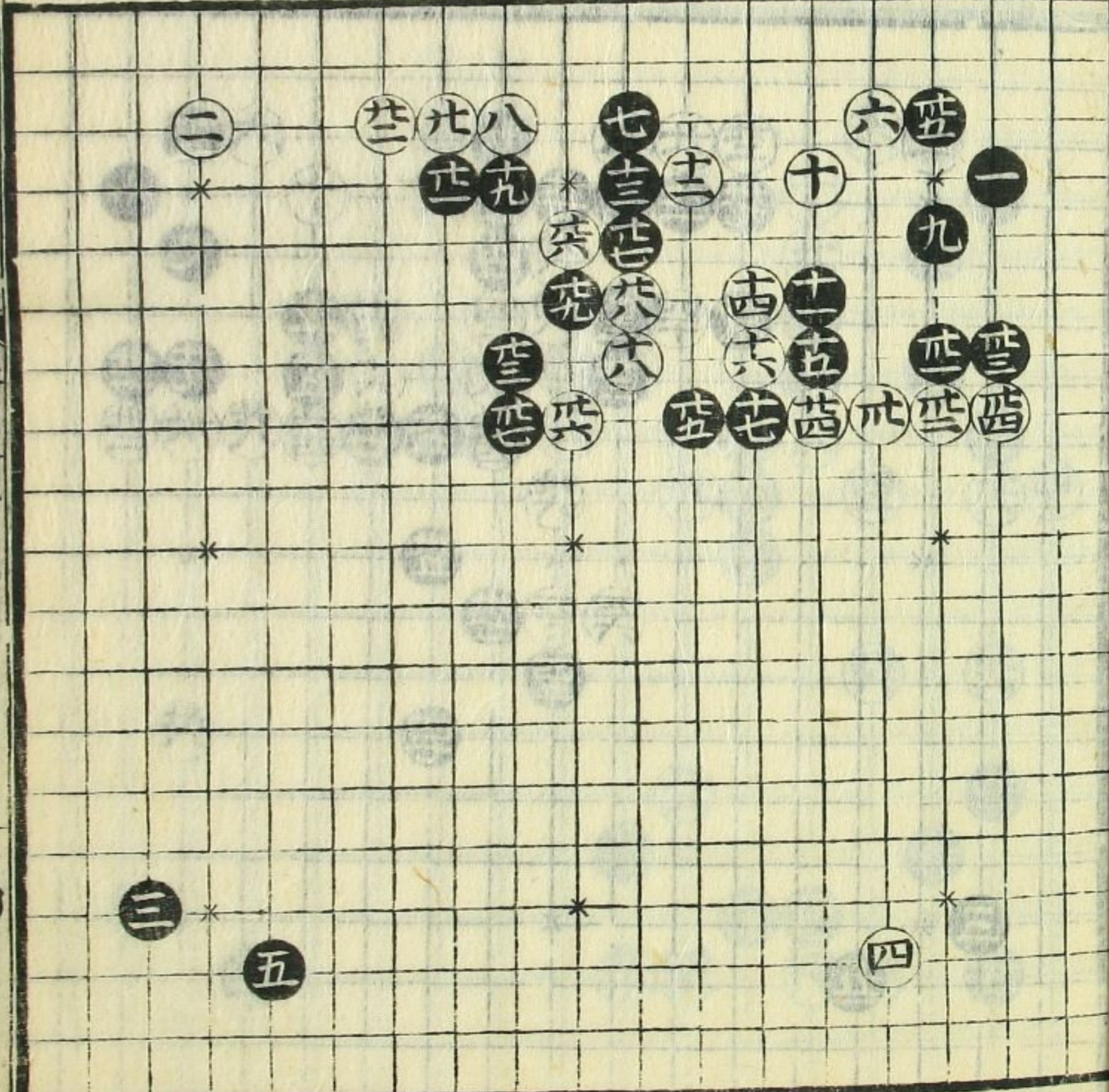
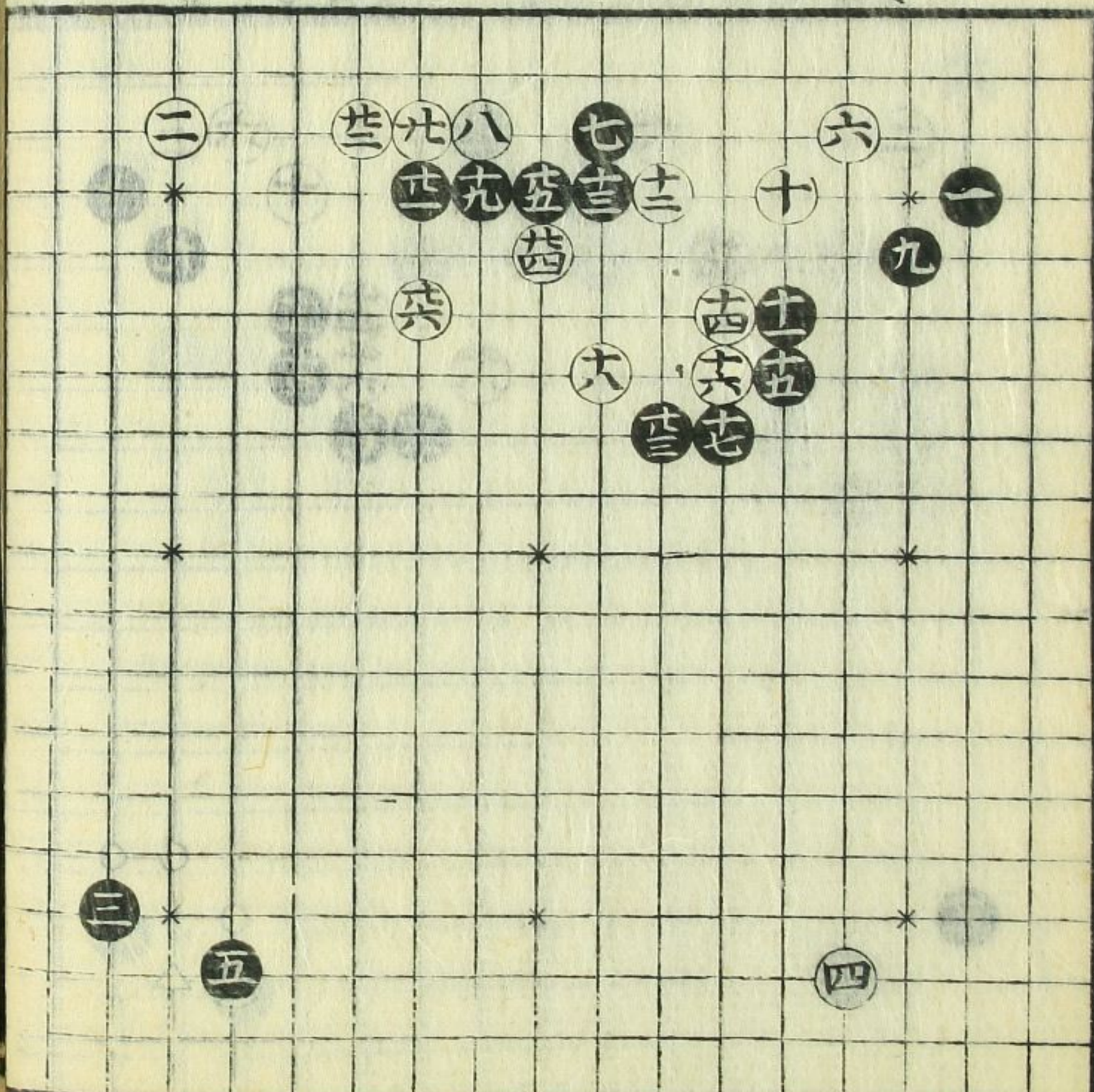
白の亦あをの
ふく黒切まは
白あふりよ能
なり

Handwritten notes in the top margin of the left page, including the number 27.

書籍目録

卷之二

十四



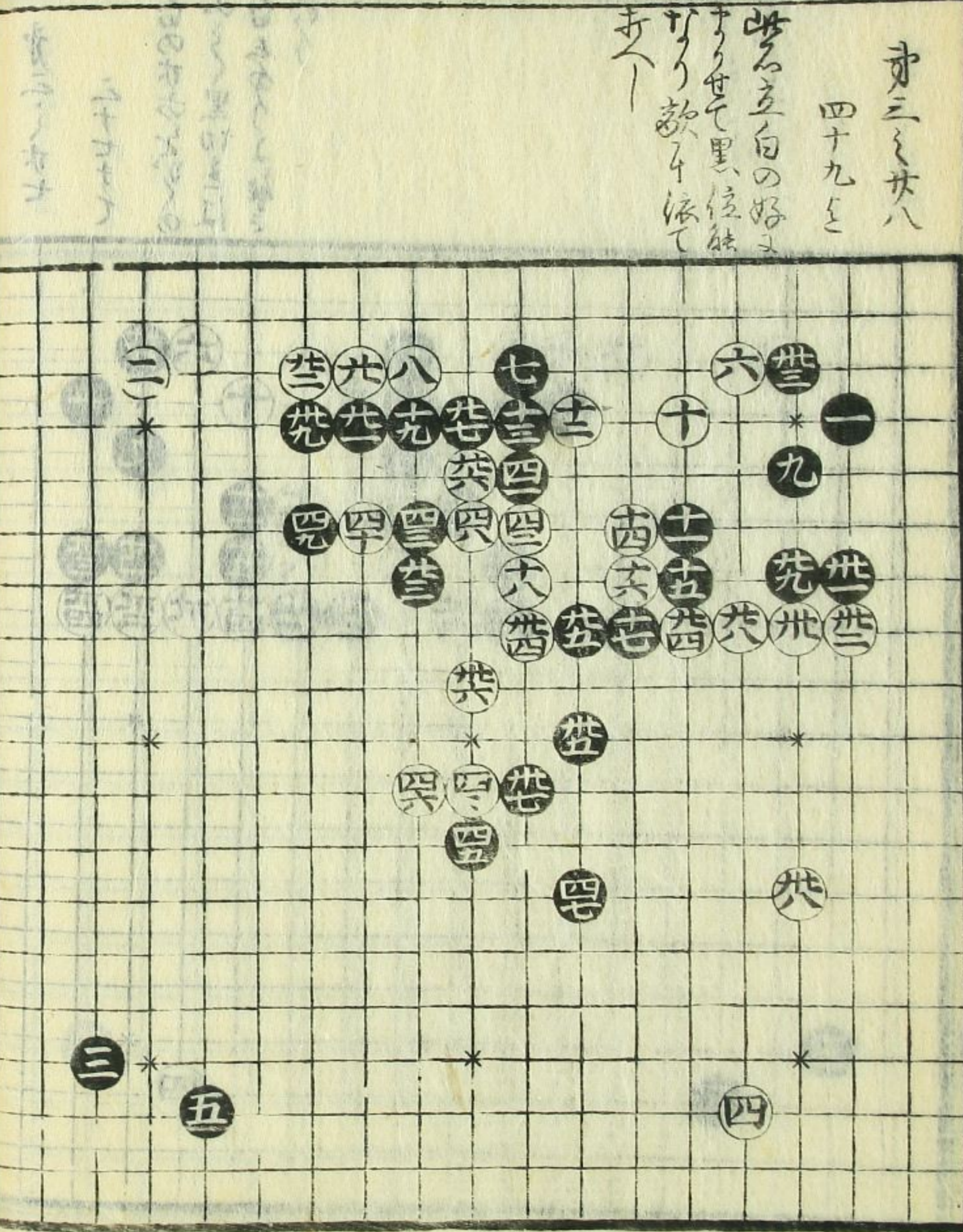
書五片席

卷之二

十四

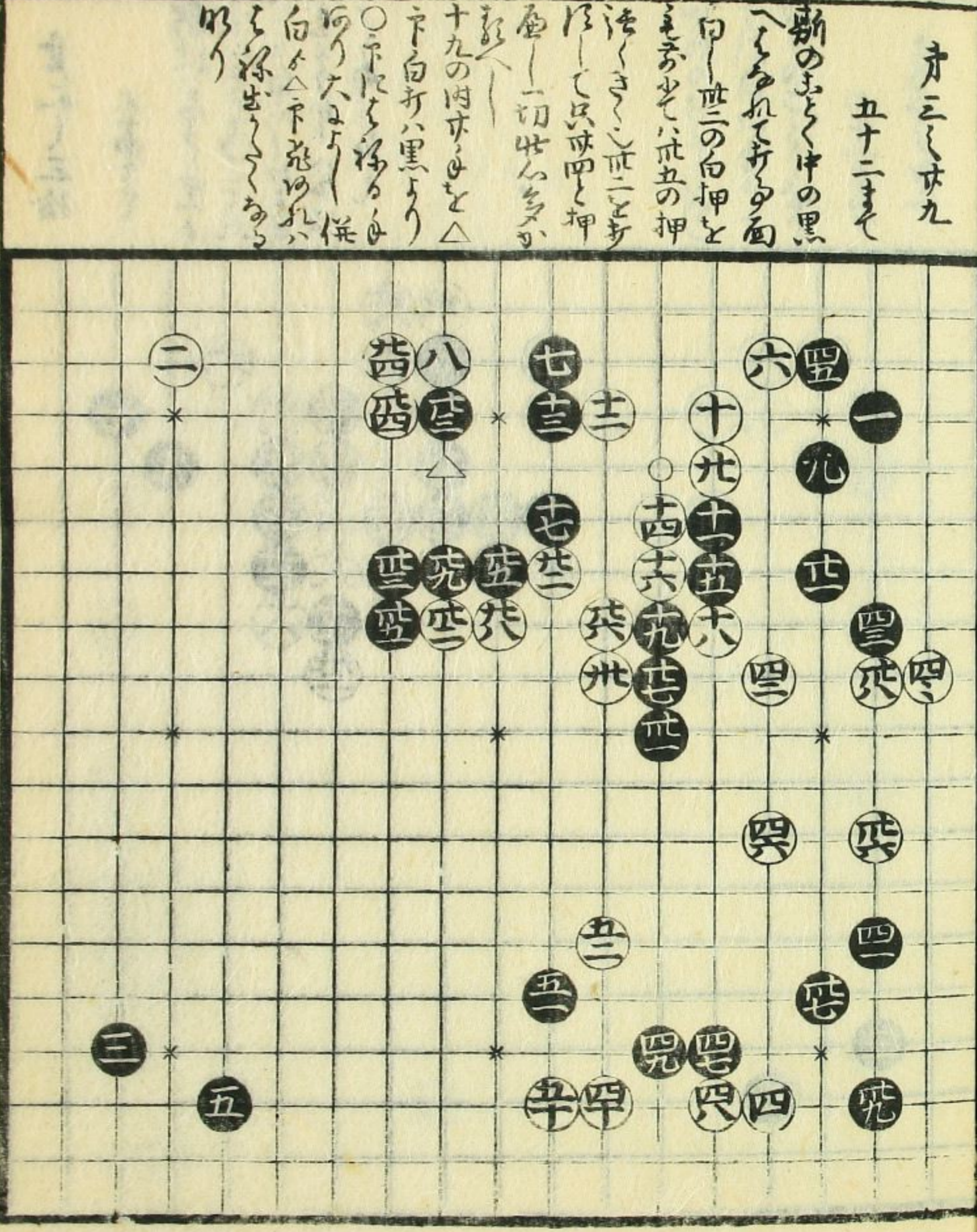
才三々廿八
四十九と

此の立白の好又
すうせて黒位能
なり款を依て
おん



才三々廿九
五十二と

新のよとく申の黒
へとあれておの面
白一世の白押を
とあせはれ五の押
法くまゝ一世二と
はして只世四と押
一一切世人多か
と
十九の内すもを△
下白折八黒より
○下はと移るも
何り六より一併
白△△下飛ゆれハ
と移るゝゝあ
り



書立月節

卷二

五

書立月節

卷二

五

才三十三拾

二十四まで

朝比...
二十...
ては...
先...
く...

才三十三一

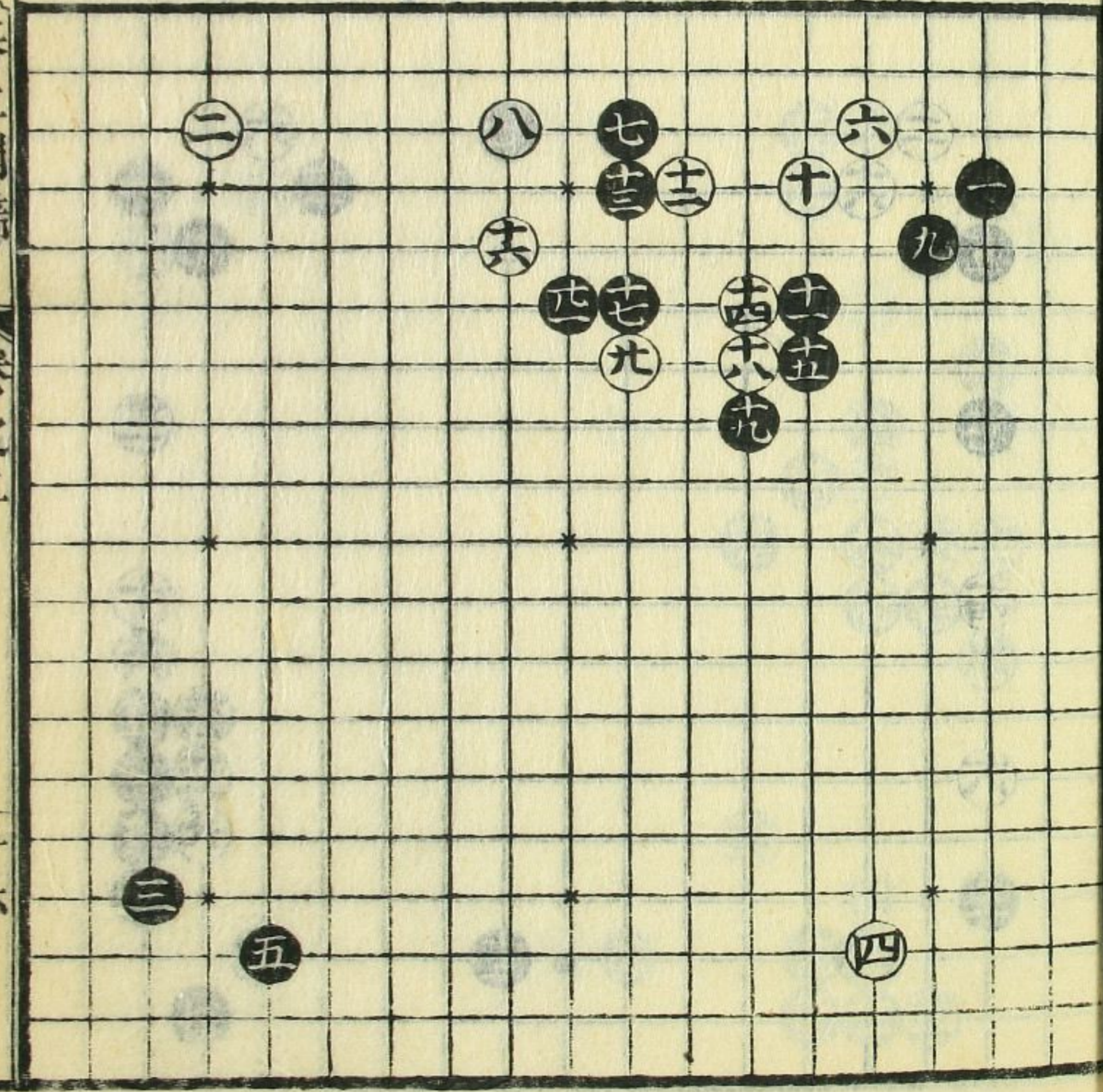
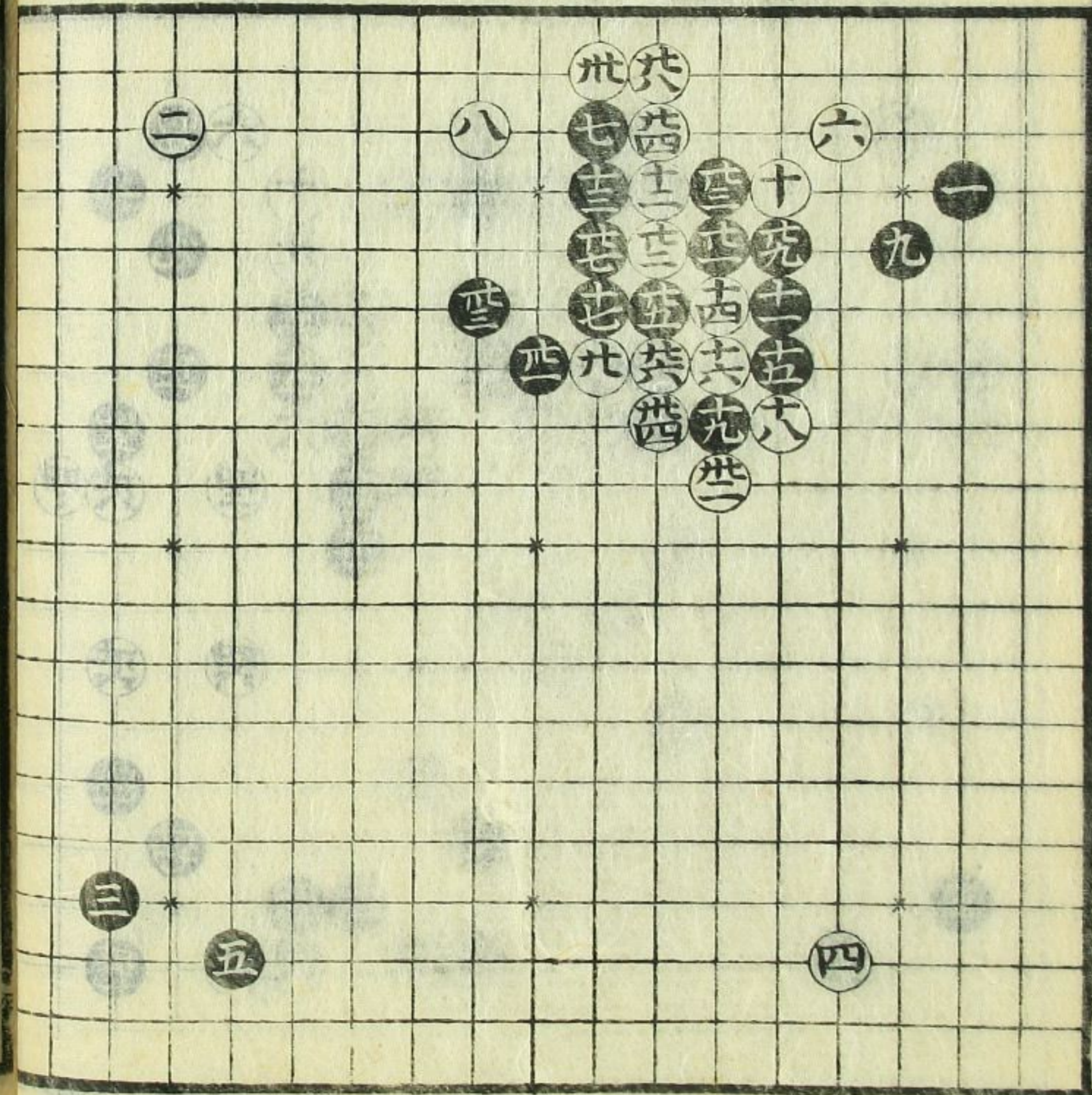
二十一まで

かく...
ては...
は...

棋五局備

卷之

十五



棋五局備

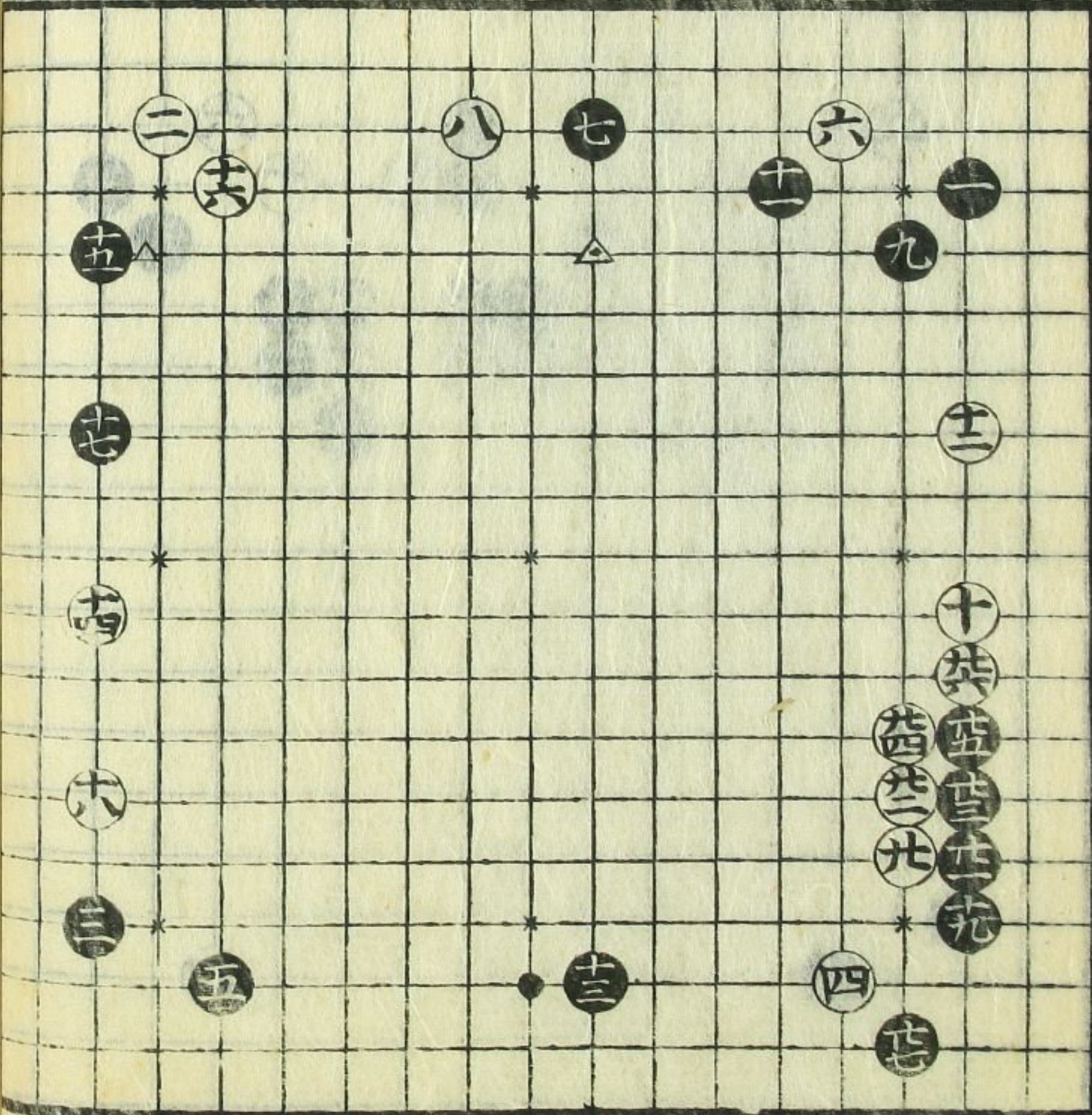
卷之

十五

才三々才二

二十七まで

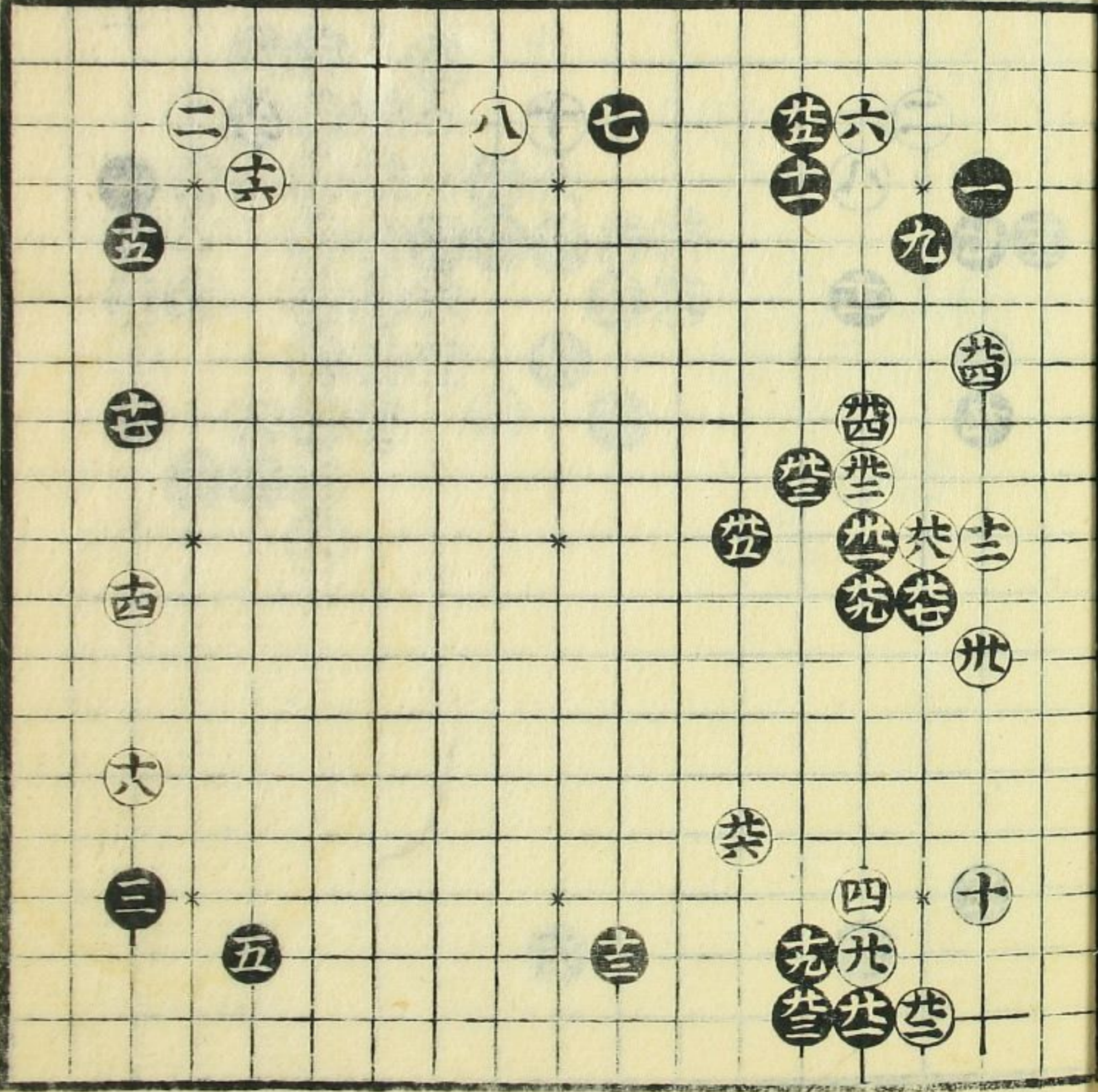
黒十二の石と場の
こちから取らして黒
十五△石と取りお
すぬせし十七と取
白の方が黒十二
を打たせぬ白
が合戦して黒
は少くして黒七の
石二石あるまで
△石は十一と取り
は黒打より白が
かゝるまで取り
ぬきぬき



才三々才二

二十五まで

白は四の石と
はてし黒より黒
十一の石と持りて
ぬきぬきはてし
黒打より



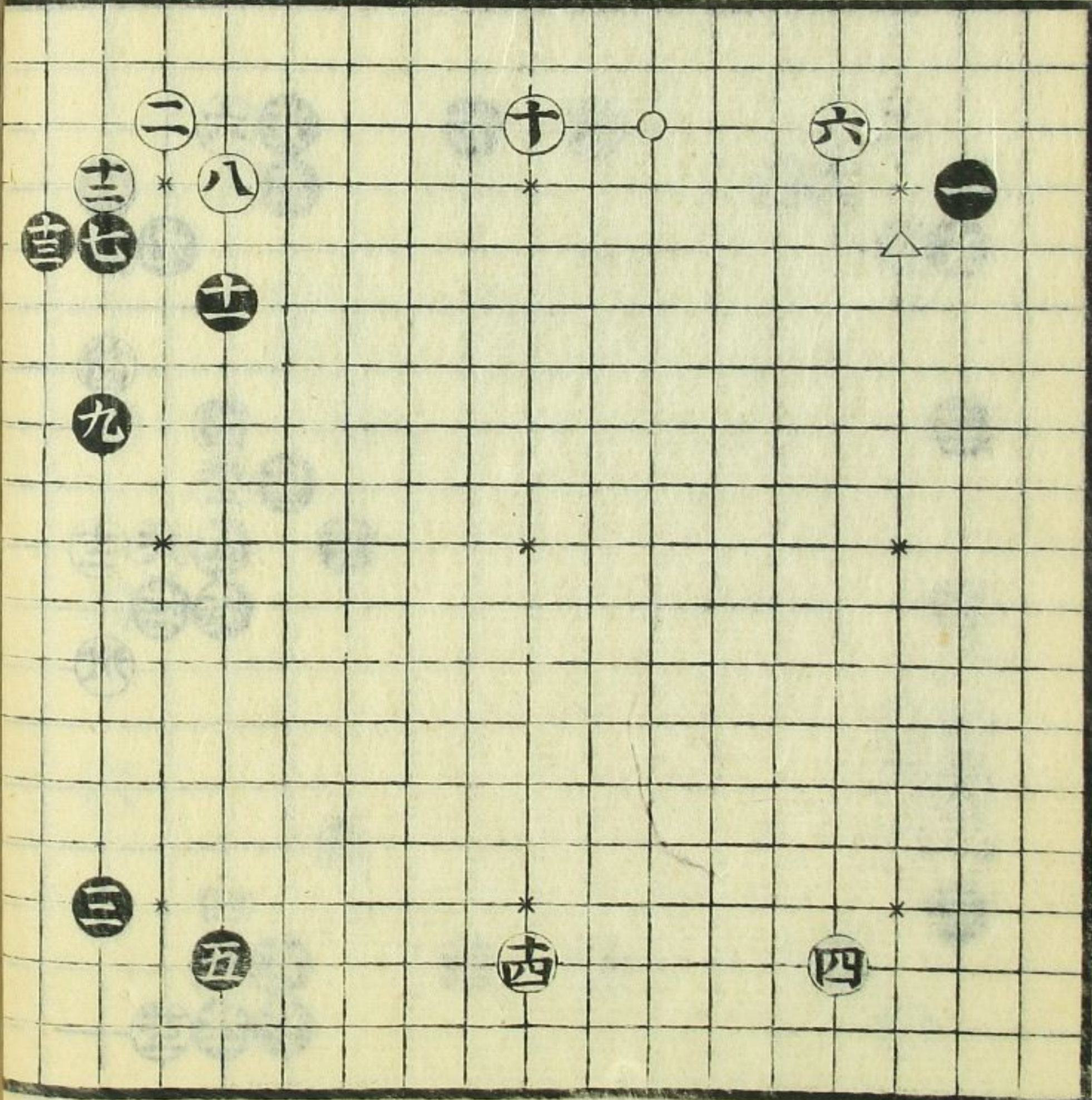
碁立綱簡
卷之三
十一

碁立綱簡
卷之三
十一

才四二

十四まで

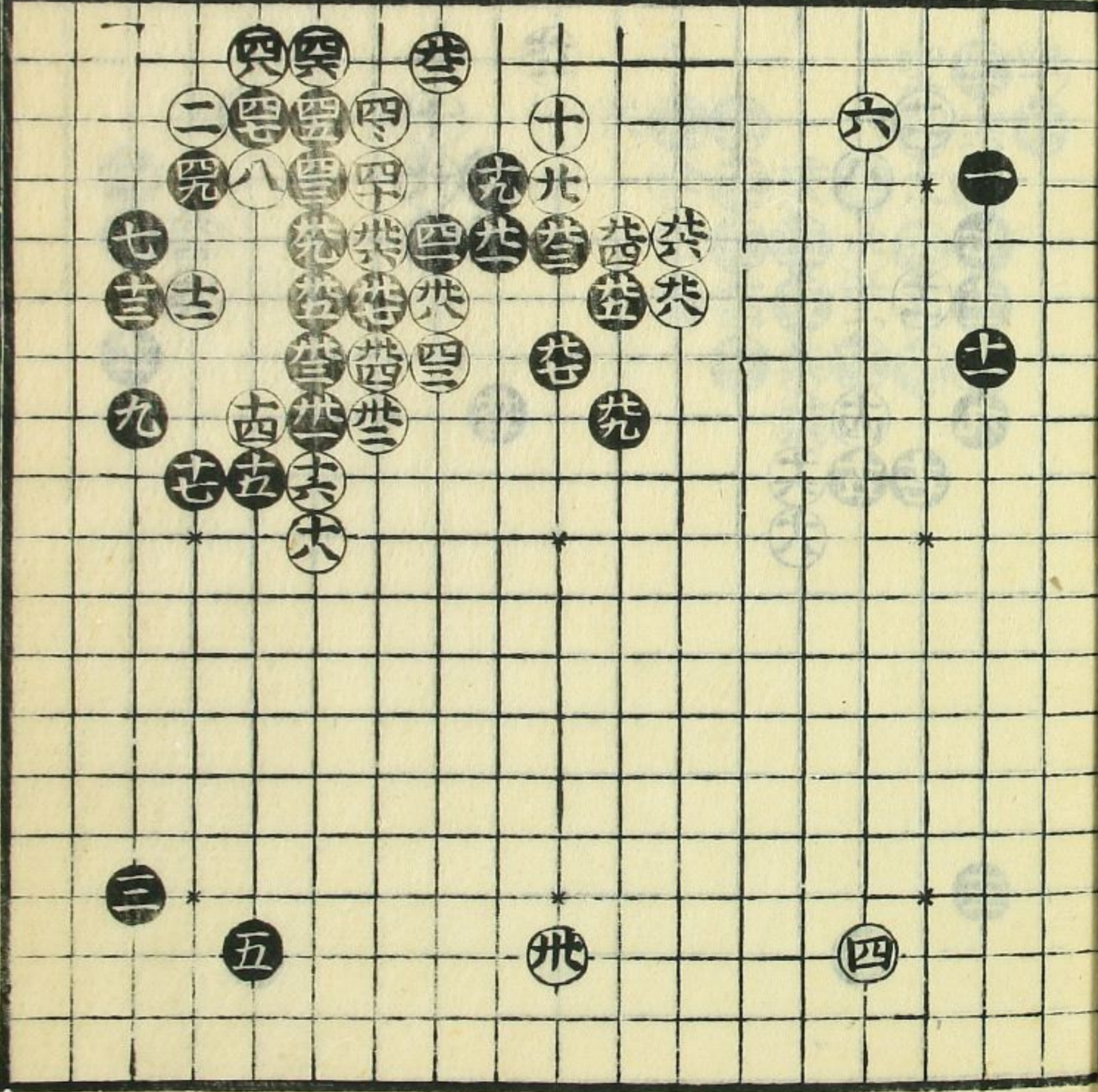
黒土の色はなれこ
とく平場黒世次乃
十五の色がしほり
七の掛りまゝとへに
こすむと○を換む
心と又二回換り黒
ぬれしとれまゝと
怪くし土の色は
赤らむては其の團ひ
早し掛りせしこす
むらゝ四の内十と赤
心の黒く丸のみに
二の石掛りしと
四の黒もて惜る
きなり



才四二

四十九と

駒はとくおとせ
黒白はまた位せ
傍負ふはなとく
考へておとせ白飛
のふにて黒せ切
るゝは成るせせ
少ては白のしき
かのごとく切て
るは黒のしき也



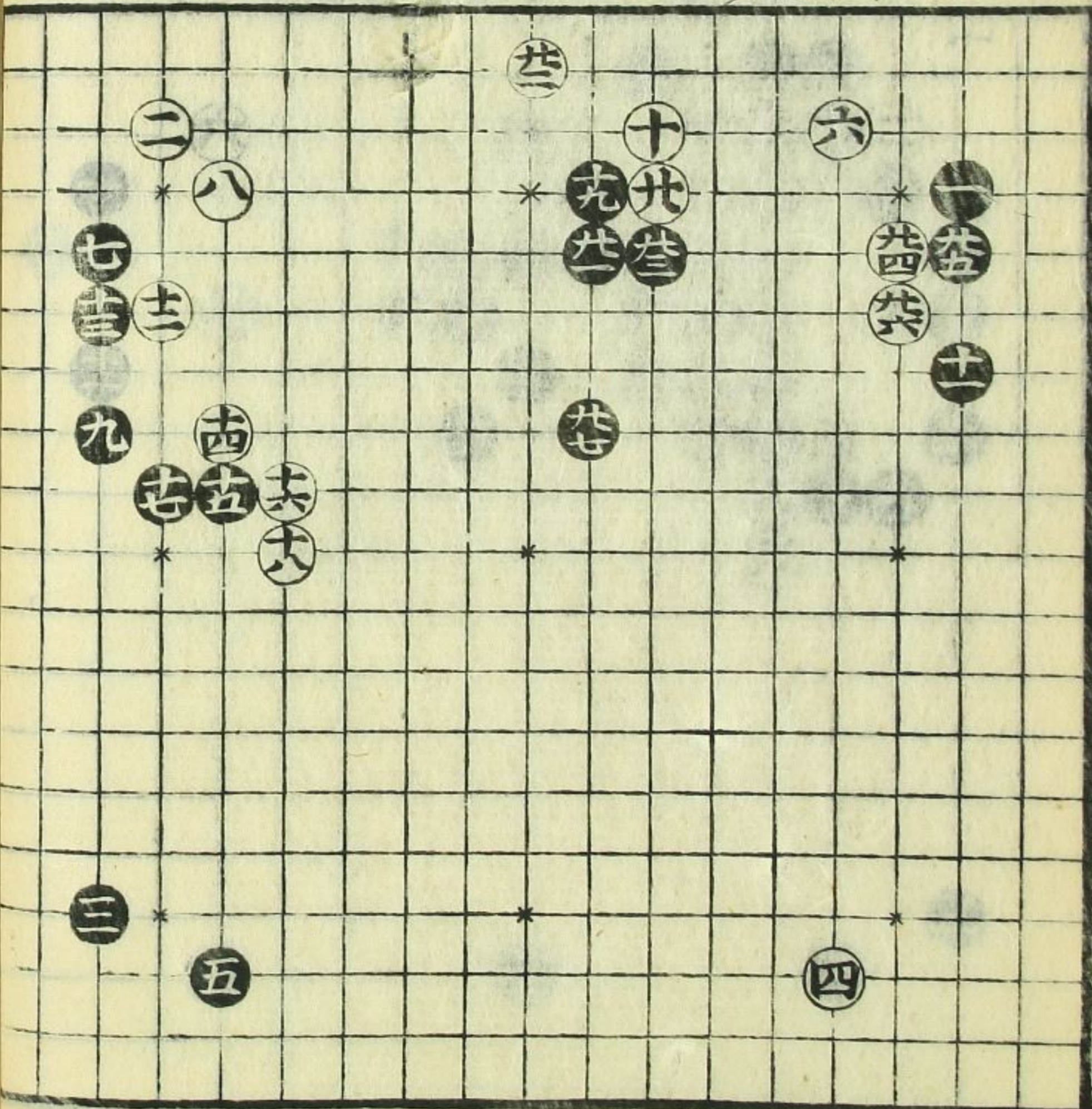
書立精節
卷之二
七

書立精節
卷之二
七

才四く三

二十七まで

かくれこころ打るや
先をばせてハ歌
よと白打たし
総生ともな方乃
石を初ら四ハ
勢ハ怪あり

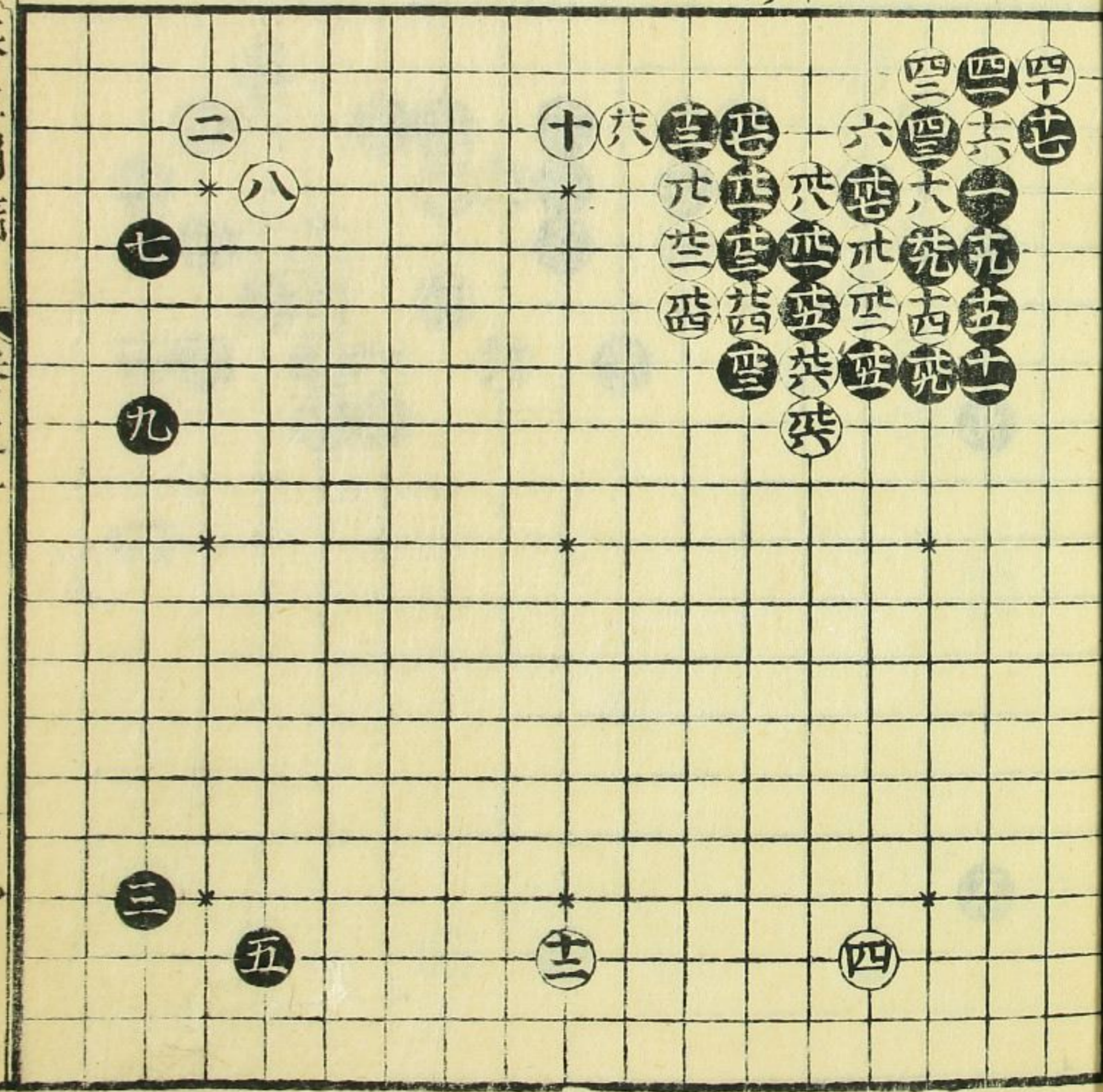


才四く四

四十二と

朝のちくちくしては
先直内と黒め
て入へりては
く思ふ七の打り
く有るなり
口信

七下り登



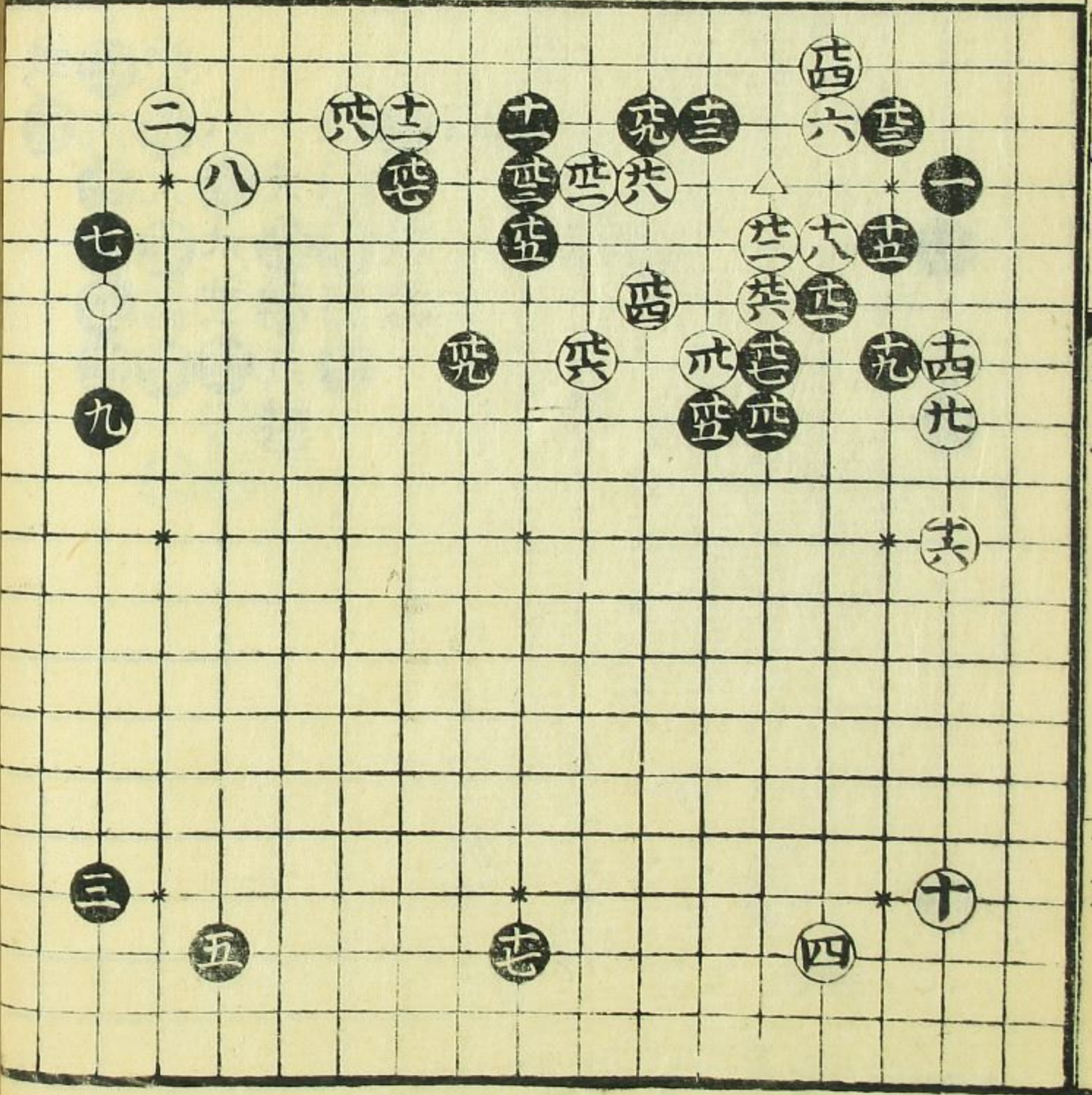
其五片糸
七
八

才四く五

二十九と

黒十七の石は白乃
六△に黒掛りて
折四ハ白より黒十
七〇下の取折は
りしはるゝをさう
白十の石と黒十七
の石は白より
黒十の石と二石換
又この同換は黒より
一の石と〇下に
有場とハハの二す
はて黒十三の石一
同換よりぬるり
きりり

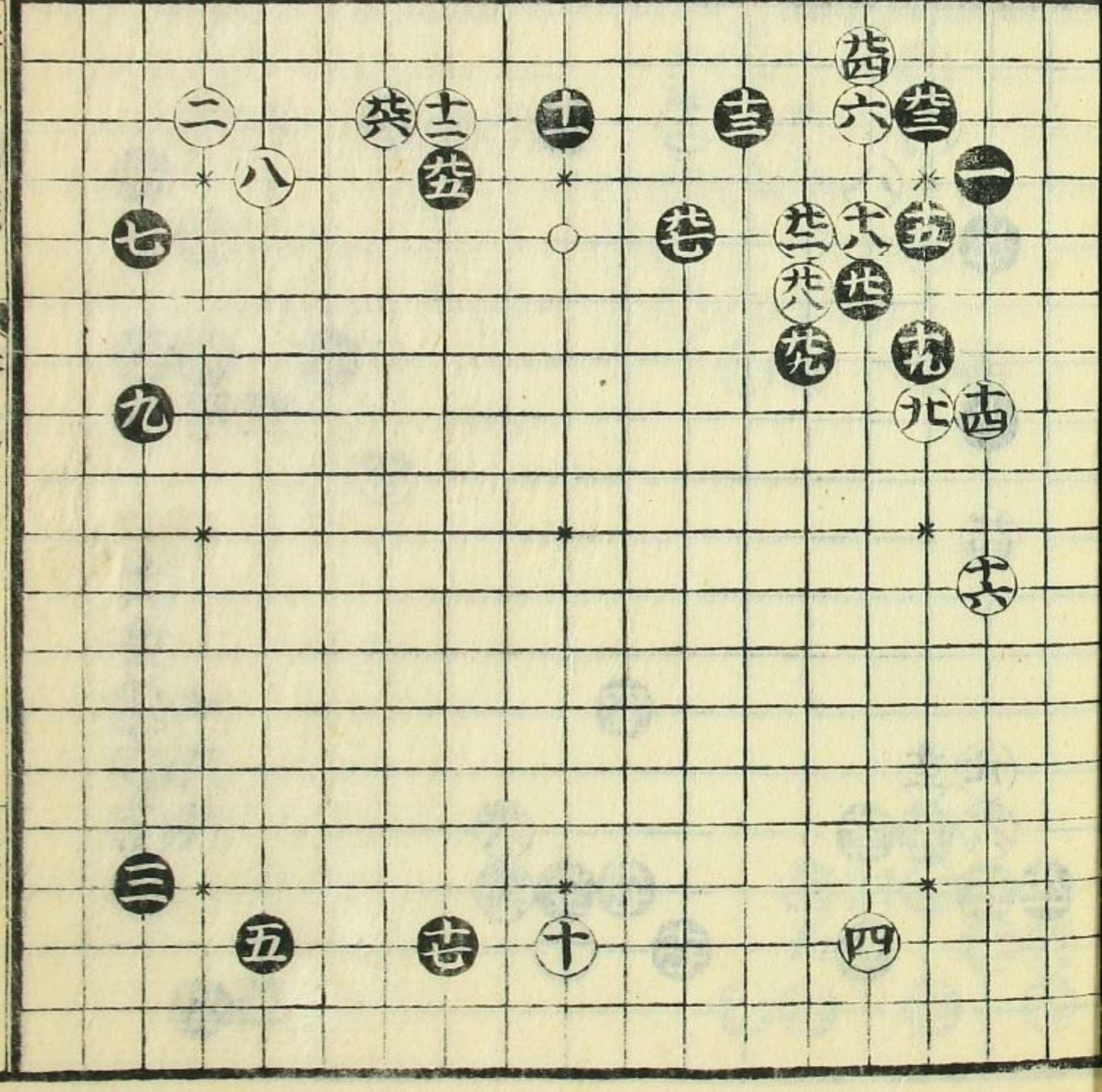
十より盤



才四く六

二十九と

此石組十の石と白
より折の石より折
てハ平陽黒より
折るゝも一番基
りみりりりりりり
十七〇十一の上よ
下に折て十の石
黒の石より折るゝ
の石の石〇下に
折るゝも折るゝ
折るゝも折るゝ
折るゝも折るゝ
折るゝも折るゝ

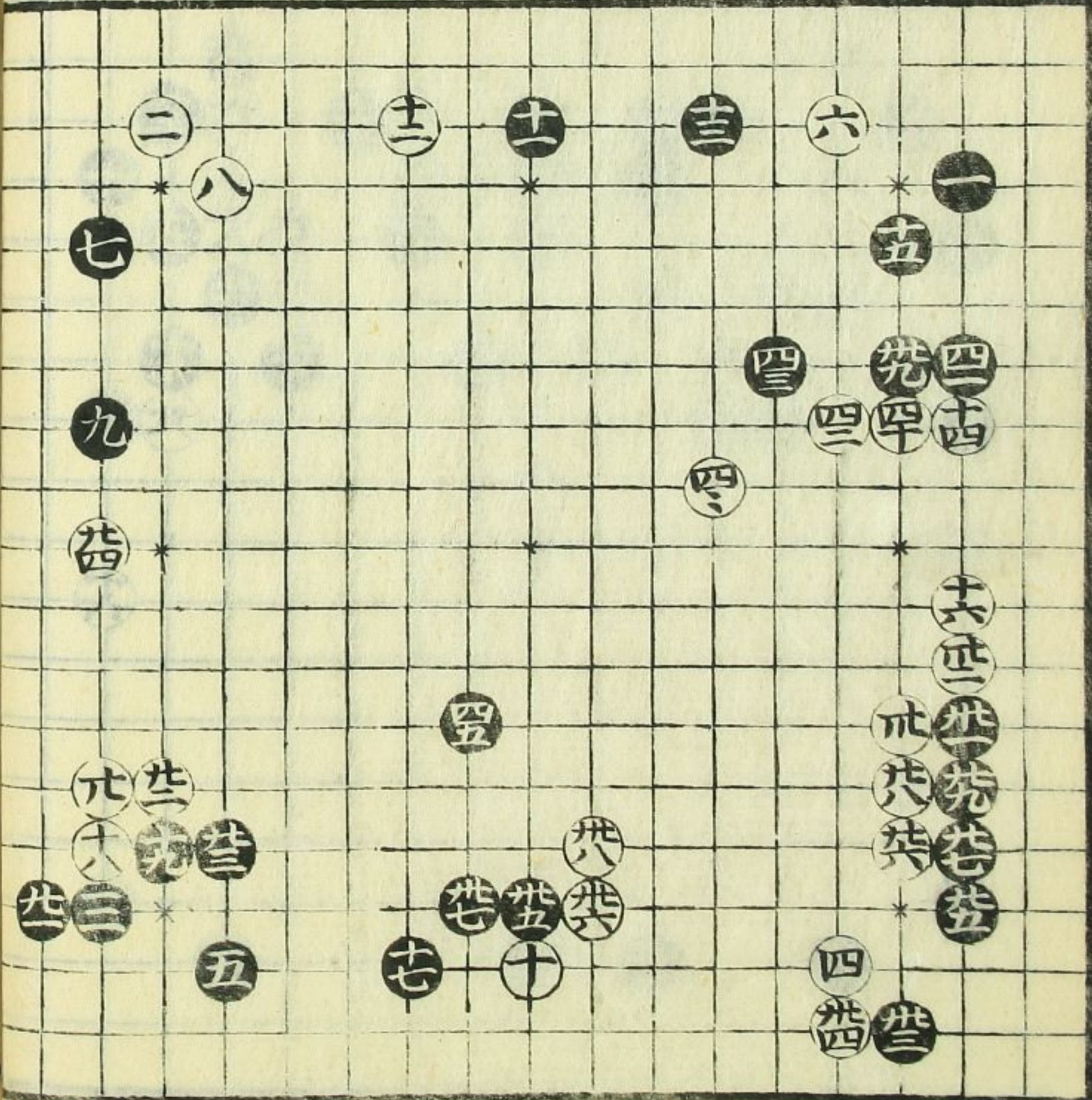


碁正統
卷之二
十九

才四七

四十八と

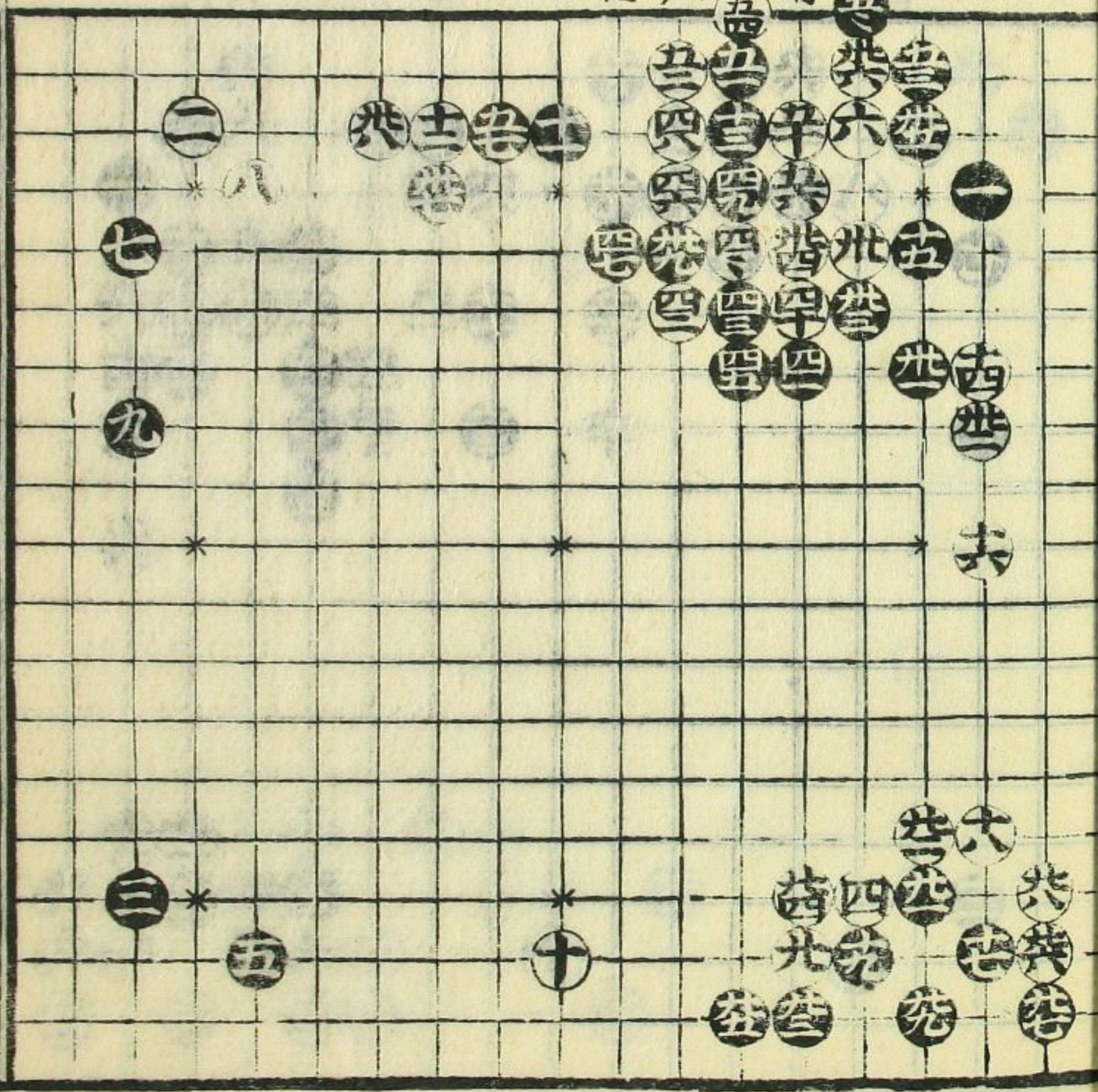
此石立えんはひ
怪なり黒廿九乃
んれこく大まき
勢ひをんせまひ
て打るをよ
黒四十八のひ一
の約合なり
口傳



才四八

五十七と

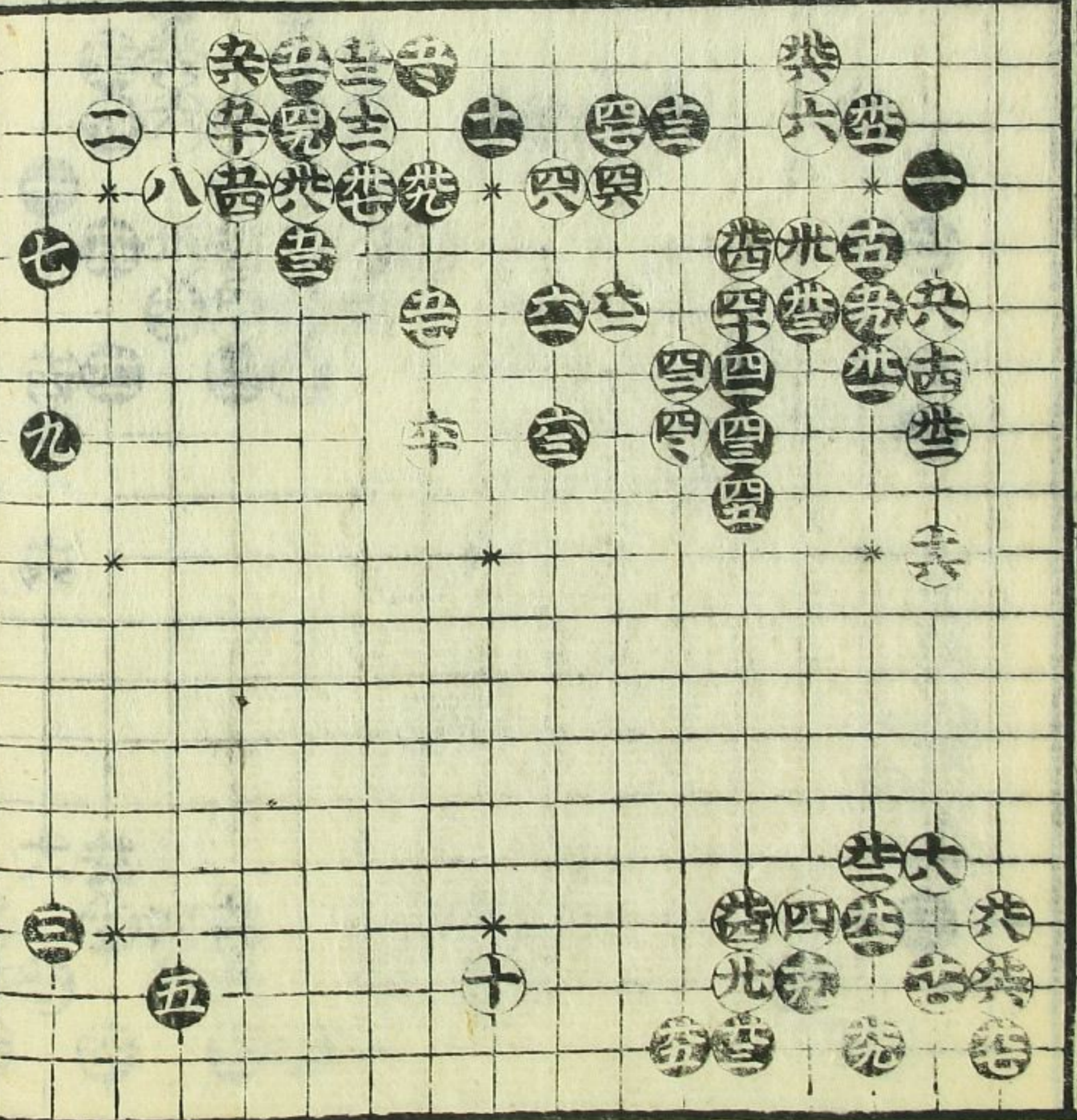
新のちくけつては
黒大まき初のは
しく白四のひ大目
中へ白の平陽黒
より黒をれく黒
九のひ一をによう
てぬるれをん
合



才四し九

六十二と

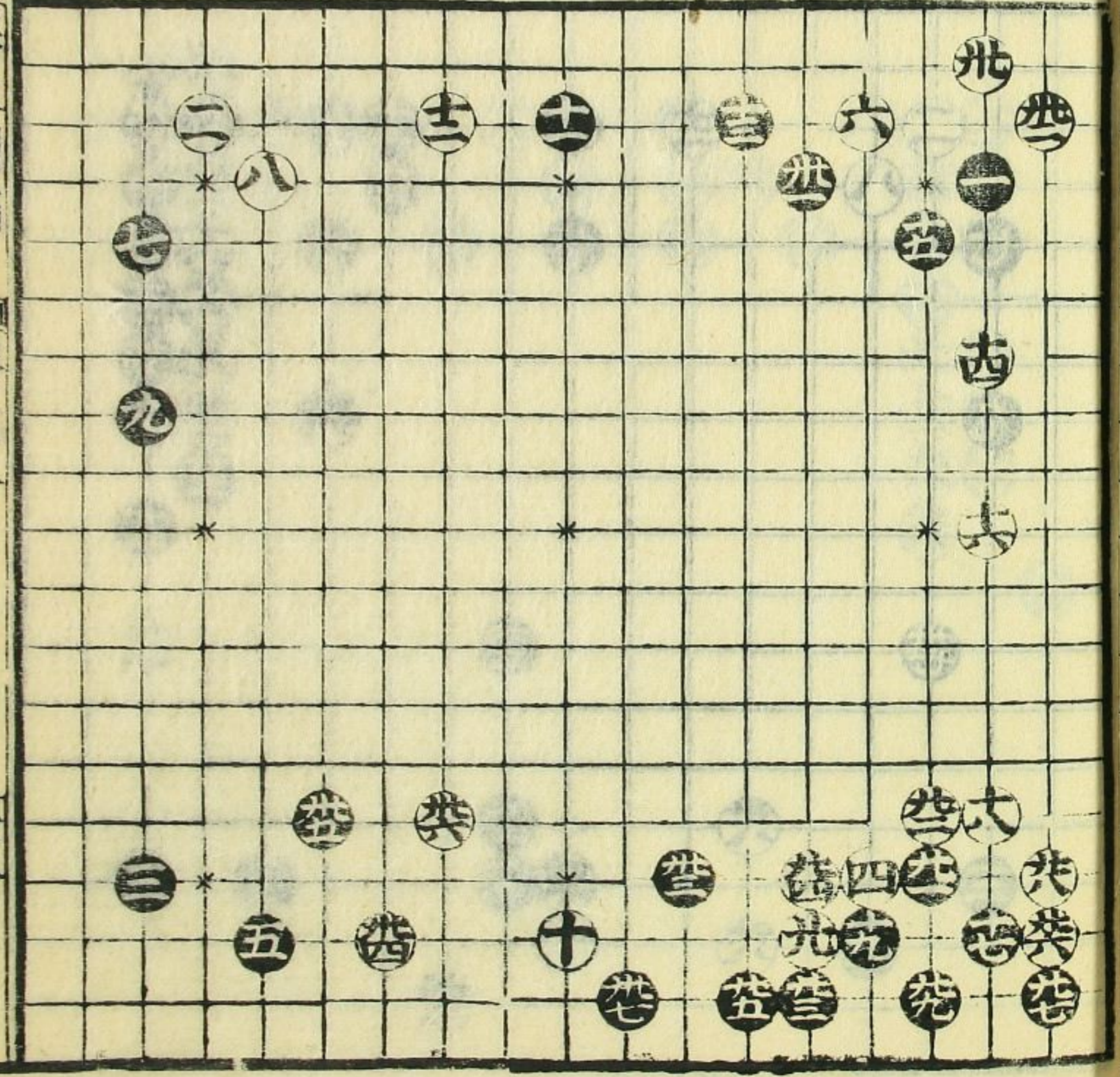
白四十四の内黒より
白四十の石を切れ六
白より桂よ打て早
二の石は直るれ以
黒何きし六十七
ゆるすく黒五十七
てとすみく打る



才四し拾

三十七と

先勢は地黒三
十三平場序と
入の白はせりて
はれぬ

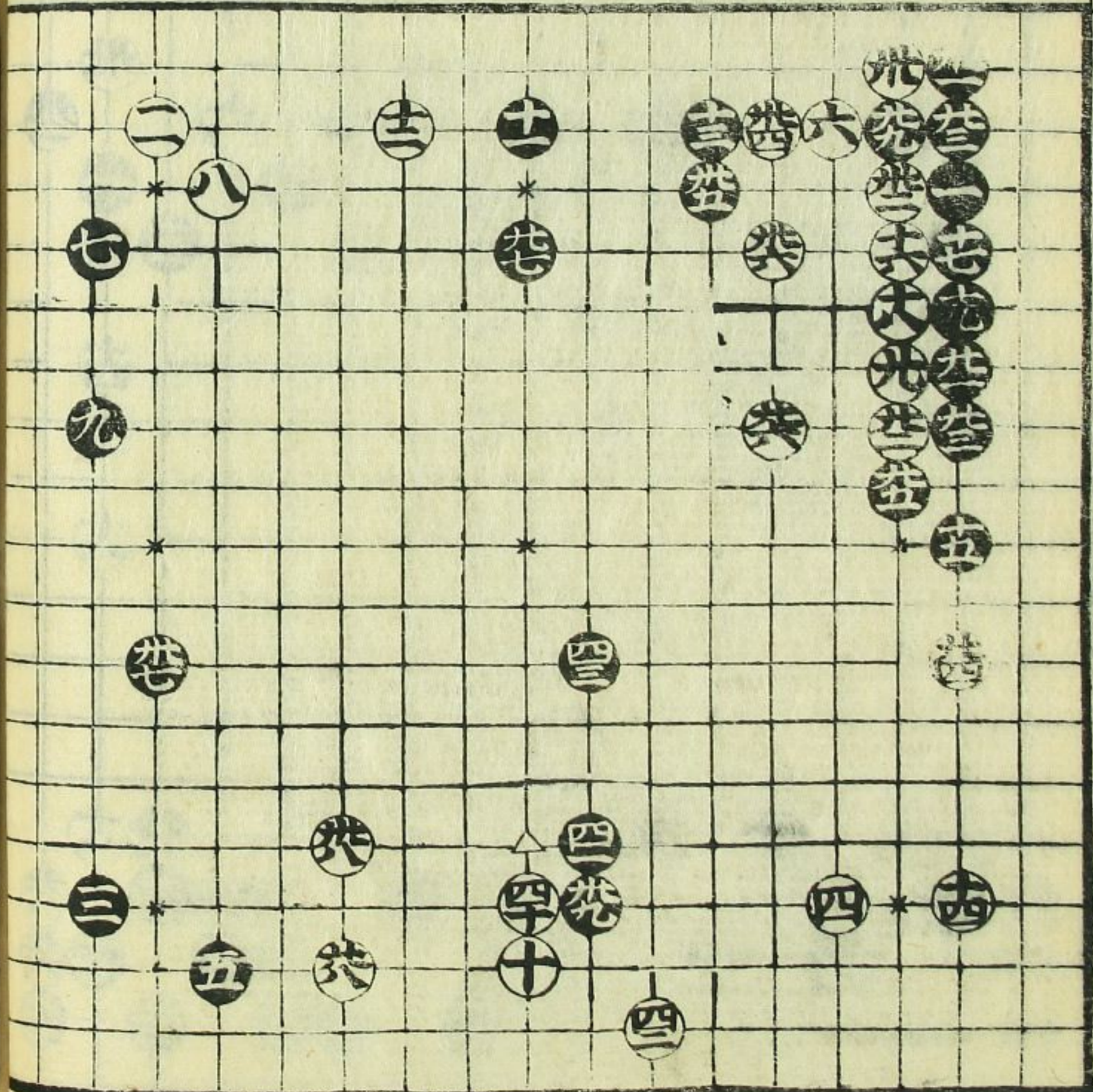


才四し拾
三十七と
先勢は地黒三
十三平場序と
入の白はせりて
はれぬ

才四く拾一

四十二と

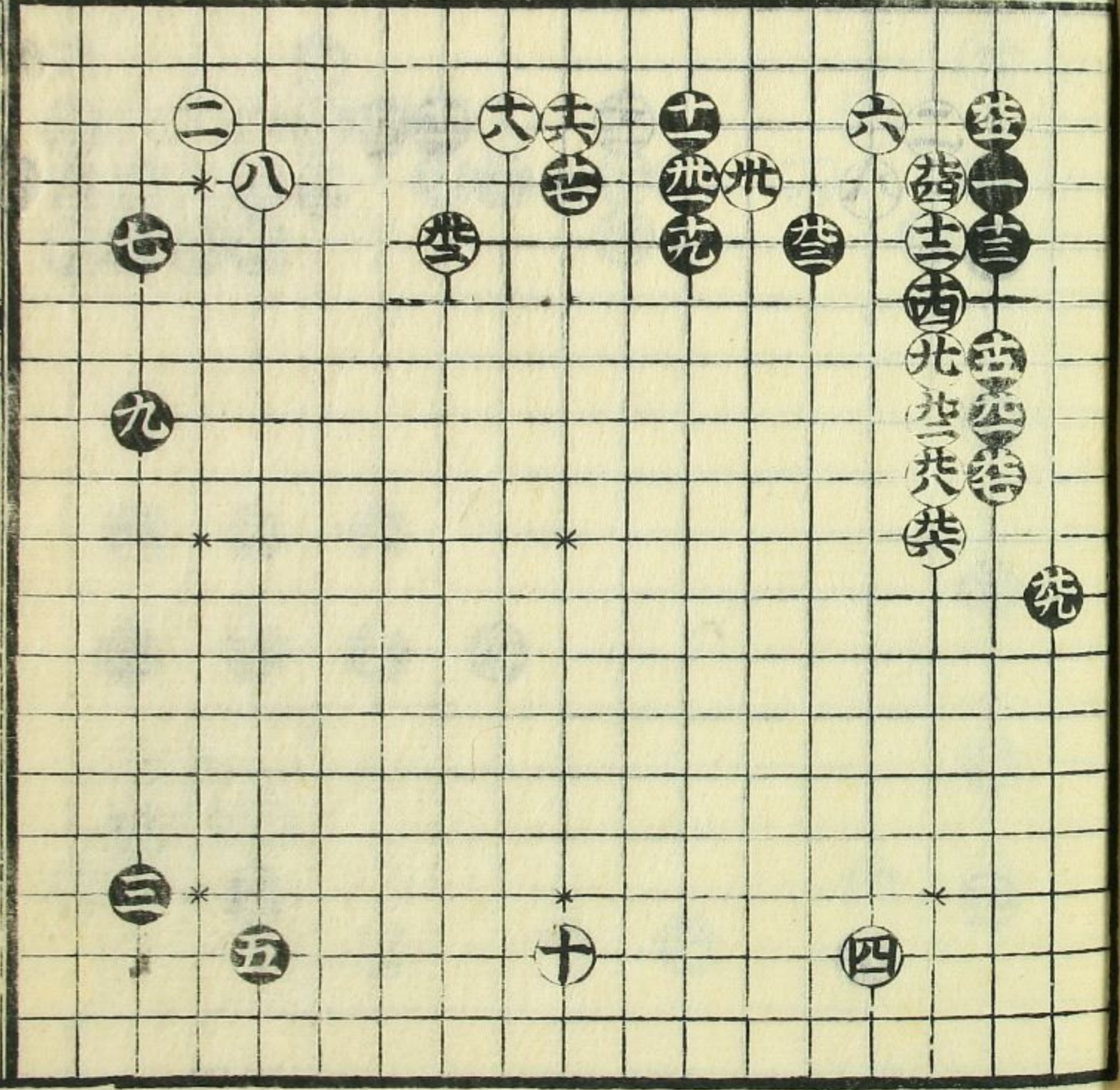
此石五先立並て
白勢一後三石組
也白十四の位位
もあつ黒四十二白
所以の石有九白の
四十後△下押は
てかくのころく
少一切は世心多
あつた



才四く拾二

三十二と

先勢ハ怪し茶の
石まわしはあ
向ら那のころも
あつた



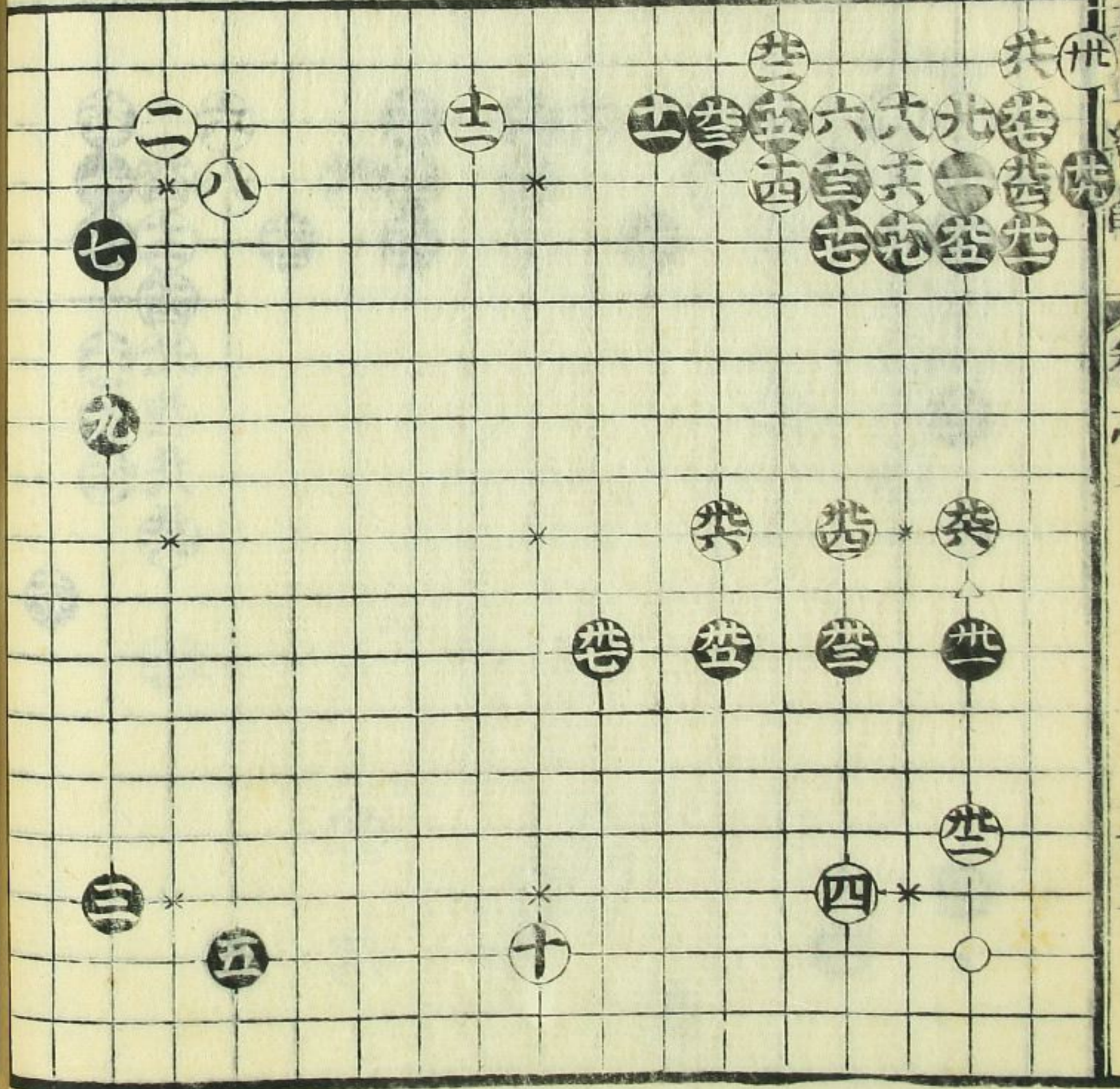
書立月節
卷之二
七三

碁立新編
卷之二
七三

才四く拾三

二十七

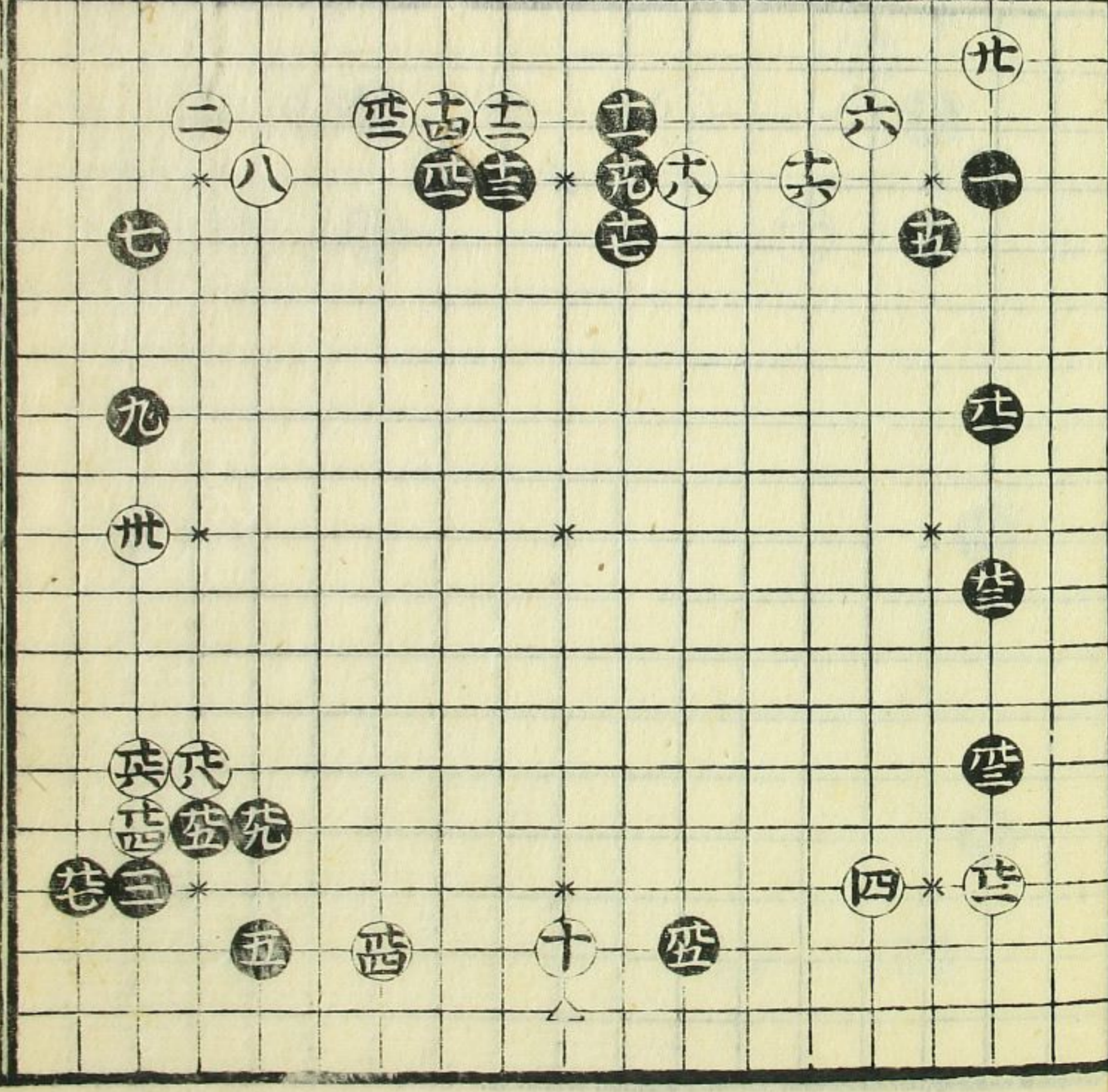
先勢ハ白の
カゴト二回借
下は白は黒
白四の角桂
白(折込)白六
黒の壁さう
きをたてた
所あり



才四く拾四

二十六

先勢ハ白の
甲二回借せ
二十五と打
十の(月)△
黒三十三と
十四と打す
一切けるを
る(十五)の
此揚し白十二
黒十七の(月)
に白八の時
上桂よ打す
れりも用ひ

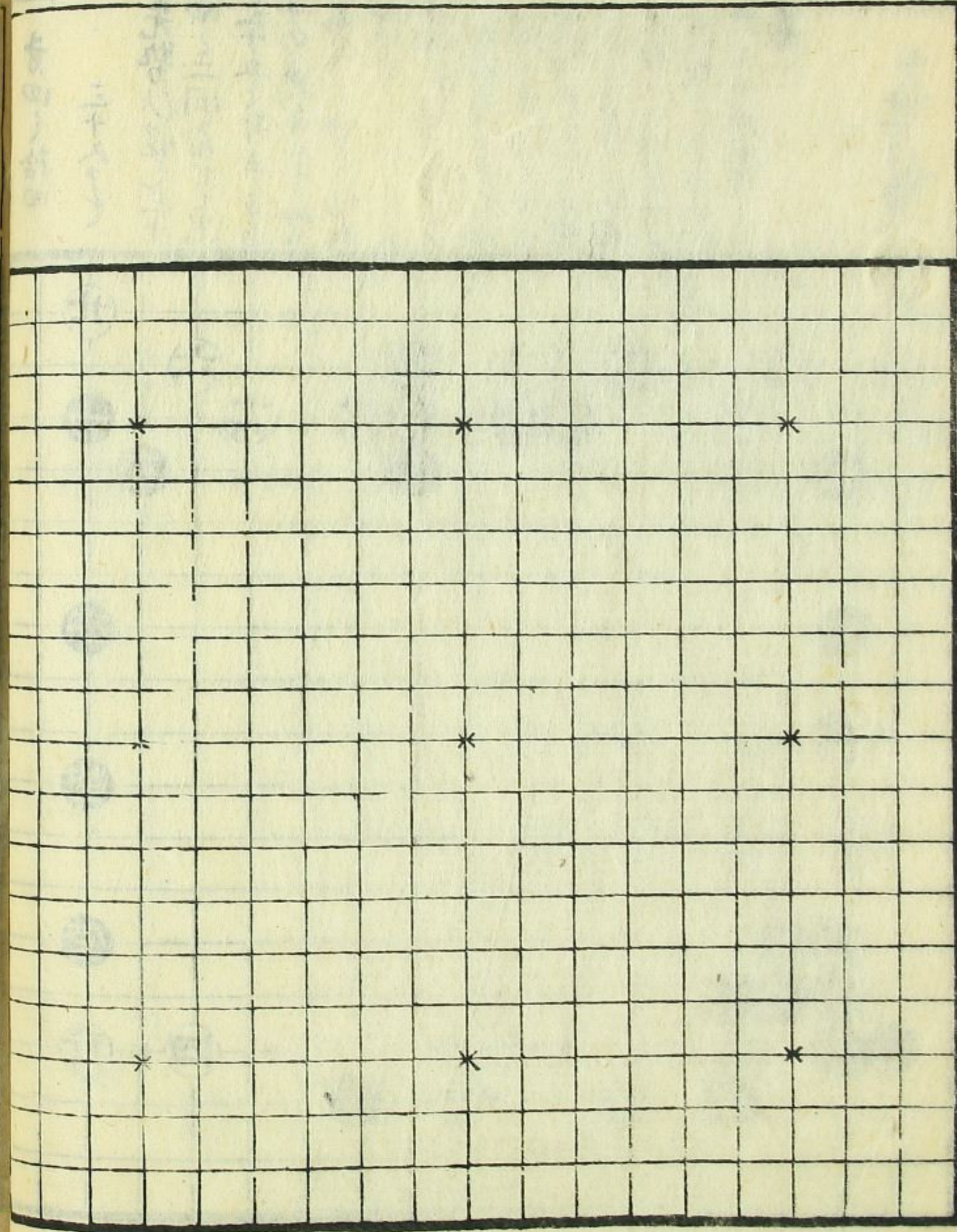
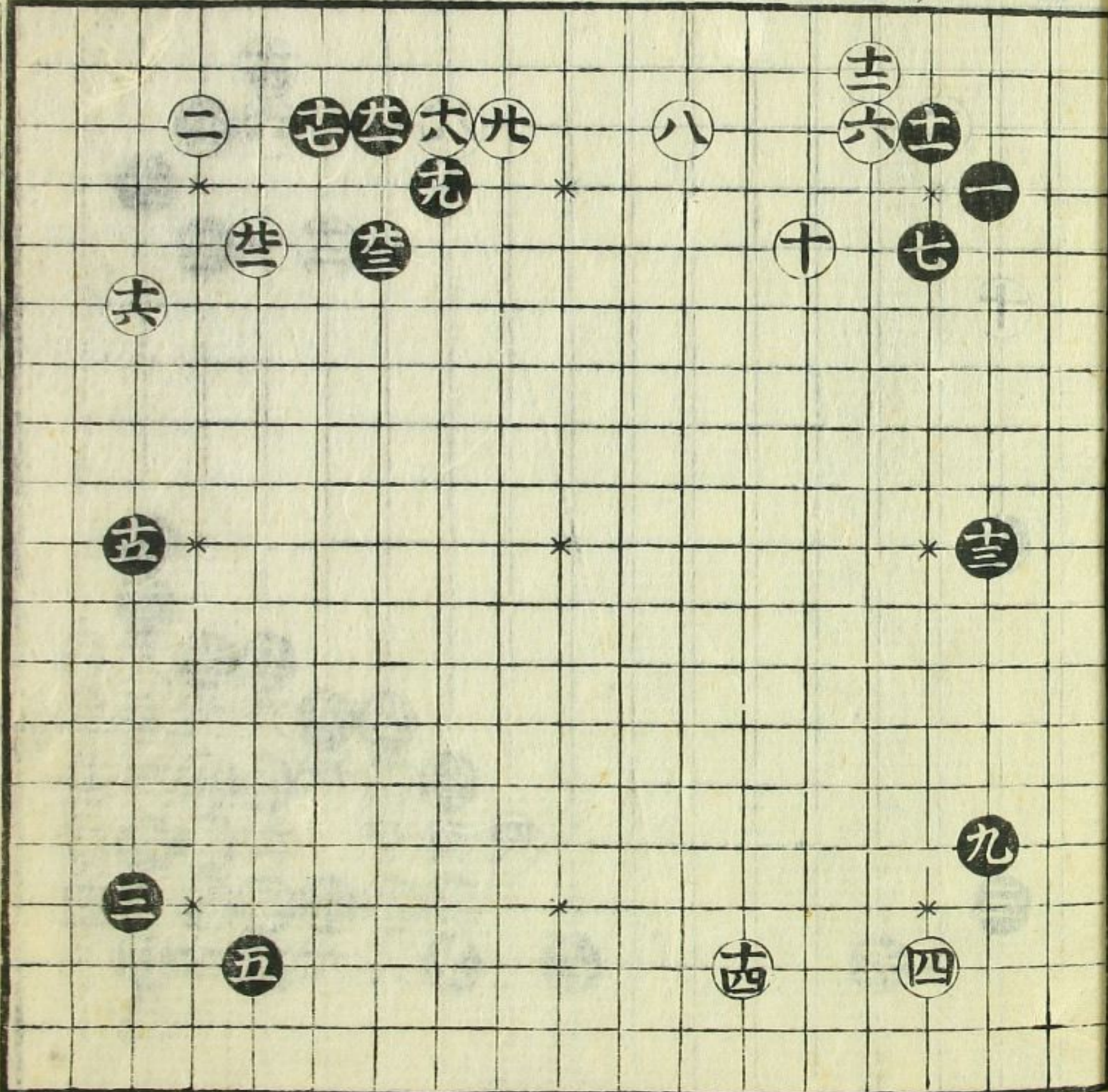


十一

才二之才三

二十三と

茶基は白く打
少くは時ハ此基を
用ひ一拍子成
ぬれて黒打なり
黒十七の打色を
一位置り此基を
破る



茶基は白く打
少くは時ハ此基を
用ひ一拍子成
ぬれて黒打なり
黒十七の打色を
一位置り此基を
破る

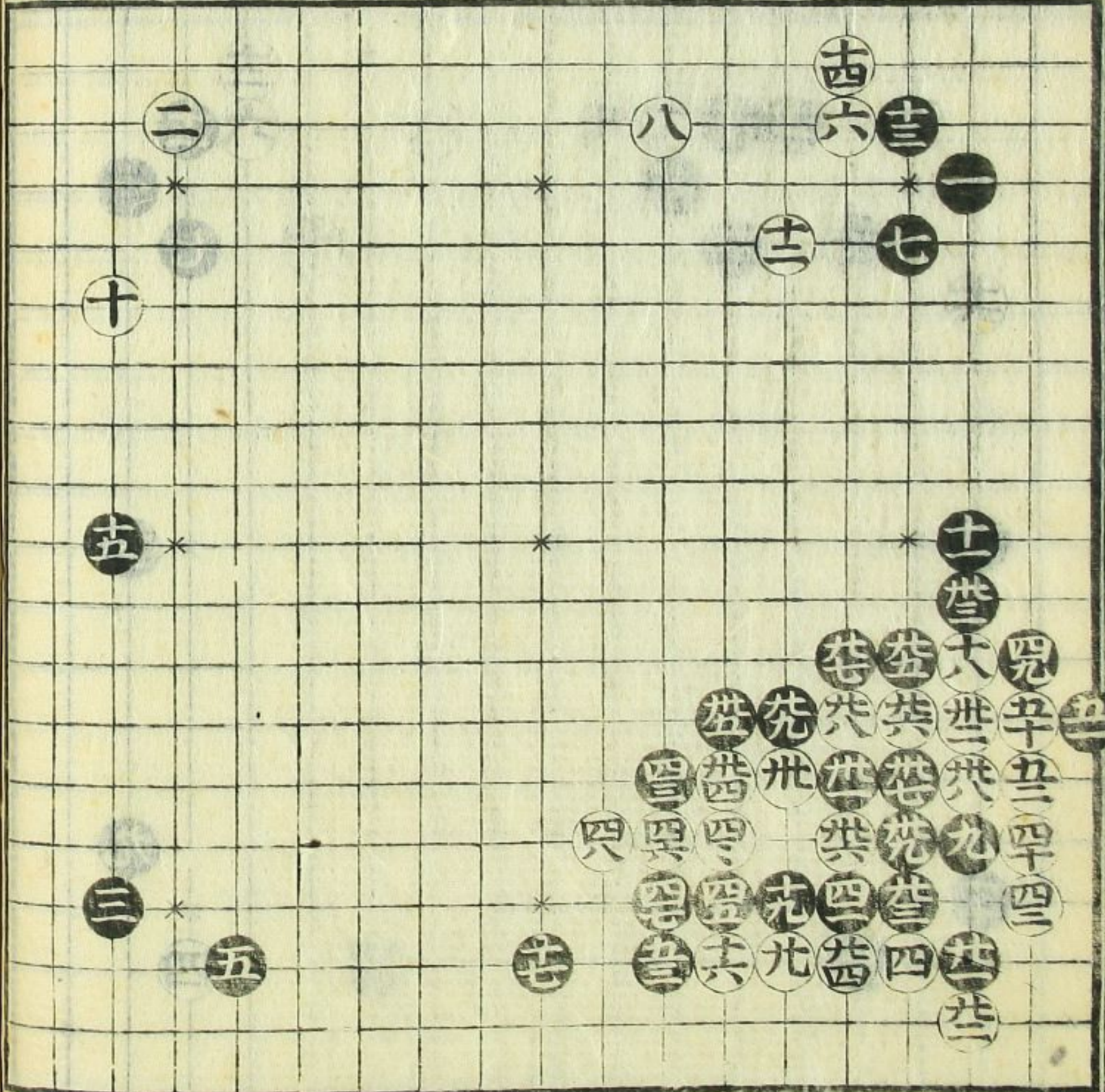
茶基は白く打
少くは時ハ此基を
用ひ一拍子成
ぬれて黒打なり
黒十七の打色を
一位置り此基を
破る

才二之廿四

五十三と

黒十七と駒めやく
待と折向の仕掛
とがこいの間と位
より見合打さきこ
黒十一の女と打て
茶の碁と見合十七
の女は早さと別
れやく結ゆとびて
あ一切の碁のむ約
合と位ふ大事と
知るべし

碁立筋節葉篇卷終



碁立筋節

卷之

